

基準5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

<準学士課程>

観点5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点に係る状況）

本校の準学士課程では、高専の特色である5年間にわたる一貫教育システムを有効に活用し、段階的に本校の教育目的を達成することを主眼として教育課程を編成している。特に平成19年度からは本校の教育目的をより適切に達成するために、準学士課程の教育課程を大幅に改訂して実施している（資料5-1-①-1、別添資料5-1-①-1）。改訂の例としては、本校が教育目的として掲げる「地球の一員としての倫理力を身に付ける」ことを積極的に達成するために第1学年に「情報リテラシ」、第5学年に「環境科学」、「技術者倫理」の3科目を新たに開設している。また、新たに必修得科目を設定し、準学士課程修了生が本校の教育目的を達成しているという保証をより明確なものとしている。

専門性の違いから、改訂後は全履修単位数が学科によって異なるが、各学科とも低学年に一般科目を多く配置し、学年が上がるに従って専門科目の比重が高まる、いわゆる楔形の科目配置になっている（資料5-1-①-2）。また、全修得単位数に占める一般科目の割合は45～47%となっている。高等専門学校の設置基準によれば一般科目を75単位（45%）以上、専門科目を82単位（55%）以上修得することが義務づけられているが、資料5-1-①-3に示す本校の課程修了要件は設置基準に沿っており、準学士課程も課程修了要件を適切に満たすように編成している。

一方、各学科の教育目標（資料1-1-②-1～2、6～7ページに前出）の観点からみると、全学科とも第1学年で導入科目をおき、基礎的な内容から始めて、次第に深めていくような科目配置であり、また実験・実習・演習科目をまんべんなく配置していることから、各学科の目標を達成するために十分な教育課程となっている（資料5-1-①-4～9）。

次に本校準学士課程の教育目標に沿った体系性について分析する。例として、一般科目及び機械工学科の科目系統図を、それぞれ資料5-1-①-10～11に示す。教育目標のうち「(A) 技術者としての基礎力」を持たせるために、一般理数系科目や各学科の専門科目を配置している。「(B) 持てる知識を使う応用力」を持たせるために、主に各学科の専門科目を配置している。「(C) 地域と自らを高める発展力」を持たせるために、卒業研究や校外実習などを配置している。「(D) 地球の一員としての倫理力」を持たせるために、前述のように、全学科共通科目として情報リテラシ、環境科学、技術者倫理を設置して対応している。「(E) 社会とかかわるコミュニケーション力」を持たせるために、一般文系科目がその中心を担っている。

上述のように、本校の教育課程は体系的に編成されており、卒業時までには教育目標を十分に達成できるようになっている。

資料5-1-①-1 本科カリキュラム改訂答申

米子工業高等専門学校
本科カリキュラム改訂答申

平成18年7月
カリキュラム検討委員会

(出典：本科カリキュラム改訂答申，平成18年7月)

資料5-1-①-2 各学年・学科の開設単位数と履修単位数

一般科目	開設単位数	履修単位数 (物質工学科以外)	履修単位数 (物質工学科)
1学年	32	27	29
2学年	25	25	23
3学年	16	16	16
4学年	23	11	11
5学年	15	3	3
合計	111	82	82

機械工学科	開設単位数	履修単位数
1学年	7	7
2学年	8	8
3学年	19	19
4学年	27	26
5学年	39	36
合計	100	96

電気情報工学科	開設単位数	履修単位数
1学年	7	7
2学年	9	9
3学年	18	18
4学年	30	28
5学年	42	33
合計	106	95

資料5-1-①-2 各学年・学科の開設単位数と履修単位数

電子制御工学科	開設単位数	履修単位数
1学年	7	7
2学年	9	9
3学年	18	18
4学年	27	26
5学年	39	35
合計	100	95

物質工学科	開設単位数	履修単位数
1学年	5	5
2学年	11	11
3学年	18	18
4学年	42	41
5学年	31	25
合計	107	100

建築学科	開設単位数	履修単位数
1学年	7	7
2学年	9	9
3学年	18	18
4学年	27	26
5学年	36	34
合計	97	94

(出典 平成19年度学生便覧より抜粋)

資料5-1-①-3 準学士課程の課程修了要件

第11条 学年の課程修了は、校長が認定する。

2 次の各号の一に該当するものは、原則として課程の修了を認めない。

- (1) 評価しない科目のある者
- (2) 次の表の学年に対応する単位を修得できなかった者

学年	単位数
1学年	27以上（うち一般科目20以上）
2学年	61以上（うち一般科目46以上，専門科目5以上）
3学年	95以上（うち一般科目61以上，専門科目24以上）
4学年	130以上（うち一般科目70以上，専門科目50以上）
5学年	167以上（うち一般科目75以上，専門科目82以上）

- (3) 欠課時数（学校行事・特別活動の欠課時数を含む。）を1日7時間の割で換算した日数が、出席すべき日数の5分の1を超える者

ただし、病気その他の理由により、やむを得ないと認められた場合にあつては、3分の1を超える者（長期にわたる病気による欠席日数が、3分の1を超える場合であっても、特別な状況にあると認められた者を除く。）

- (4) 特別活動の履修状況及び学校行事への参加状況が著しく不良の者

(出典 学業成績の評価及び課程修了の認定に関する内規より抜粋)

資料5-1-①-4 一般科目課程表

一般科目 教育課程表

(平成19年度入学生以降)

区分	授業科目	単位数	形態種別	学年別配当					備考	
				1年	2年	3年	4年	5年		
必修 修科目	国語 I	4		4						
	国語 II	3			3					
	国語 III	2				2				
	現代社会	2			2					
	地理	2				2				
	歴史 I	2		2						
	歴史 II	2			2					
	数学 I	3		3						
	数学 II	3		3						
	微分・積分	3			3					
	代数・幾何	2			2					
	解析 I	3					3			
	解析 II	2					2			
	情報リテラシー	1		1						
	物理 I	2		2						
	物理 II	3			3					
	化学 I	3(0)		3(0)						
	基礎化学	(3)		(3)						
	化学 II	2(0)			2(0)					
	生物学	(2)		(2)						
	保健・体育 I	3		3						
	保健・体育 II	2			2					
	保健・体育 III	2				2				
	保健・体育 IV	2	実技				2			
	保健・体育 V	1	実技					1		
	音楽 I	1		1						
	音楽 II	1			1					
	英語総合 I	3		3						
	英語総合 II	3			3					
	英語総合 III	3				3				
	英語総合演習	2	演習				2			
	基礎英語演習 I	1		1						
基礎英語演習 II	1			1						
基礎英語演習 III	1				1					
基礎英語会話 I	1		1							
基礎英語会話 II	1			1						
基礎英語会話 III	1				1					
独語	3	講義					3			
開設単位計	81		32	25	16	7	1			
履修単位計	76		27(29)	25(23)	16	7	1			
選択 科目	文学 I	*2	講義				2		前期	このうちから、前後期で異なる2教科4単位を選択する。
	文学 II	*2	講義				2		前期	
	文学 III	*2	講義				2		後期	
	文学 IV	*2	講義				2		後期	
	社会科学 I	*2	講義				2		前後期	
	社会科学 II	*2	講義				2		前後期	
	社会科学 III	*2	講義				2		前後期	
	実用工業英語	2	講義					2		このうちから1科目2単位を選択する。
	英文学	2	講義					2		
	英語会話	2	講義					2		
	英語演習	2	演習					2		
	時事英語	2	講義					2		
	コミュニケーション	2	講義					2		
	独語講読	2	講義					2		
解析 III	*2	講義				2		前期	自由選択	
開設単位計	30					16	14			
履修単位計	6					4	2			
開設単位合計	111		32	25	16	23	15			
履修単位合計	82		27(29)	25(23)	16	11	3			

※1 表中の「化学I」、「化学II」、「基礎化学」、「生物学」及びそれぞれの計欄について、()は物質工学科の単位数
 ※2 単位数欄に「*」を記してある科目は学修単位を示し、記してない科目は履修単位を示す。

履修単位：1単位の授業科目を30単位時間（1単位時間は、標準50分）の履修とする単位。

学修単位：当該授業及び授業時間外の学修を含め、1単位の授業科目を45時間の学修とするもの。

(出典 平成19年度学生便覧)

資料5-1-①-5 機械工学科課程表

機械工学科 教育課程表

(平成19年度入学生以降)

区分	授業科目	単位数	形態種別	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修得科目	設計製図Ⅰ	2				2			
	設計製図Ⅱ	3	演習				3		
	設計製図Ⅲ	3	演習					3	
	機械工学実験実習Ⅰ	3		3					
	機械工学実験実習Ⅱ	3			3				
	機械工学実験実習Ⅲ	3				3			
	機械工学実験実習Ⅳ	3	実験				3		
	機械工学実験実習Ⅴ	3	実験					3	
卒業研究	8	その他						8	
必修履修科目	応用数学Ⅰ	2	講義				2		
	応用数学Ⅱ	2	講義				2		
	応用物理Ⅰ	2				2			
	応用物理Ⅱ	2	講義				2		
	工業英語	1	講義					1	
	材料力学Ⅰ	2				2			
	材料力学Ⅱ	2	講義				2		
	工業力学	2				2			
	機械振動学	2	講義				2		
	機械動力学	2	講義					2	
	水力学	2	講義				2		
	流体力学	2	講義					2	
	工業熱力学	2	講義				2		
	熱工学	2	講義					2	
	機械工学演習Ⅰ	1	演習				1		
	機械工学演習Ⅱ	1	演習					1	
	機械材料学Ⅰ	2				2			
	機械材料学Ⅱ	1	講義				1		
	機械工作法Ⅰ	1			1				
	機械工作法Ⅱ	1				1			
	機械工作法Ⅲ	1	講義				1		
	生産システム工学	2	講義					2	
	基礎電気電子工学	1				1			
	メカトロニクス	1	講義				1		
	アクチュエータ工学	1	講義					1	
	計測工学	2	講義					2	
	制御工学	2	講義					2	
	情報処理	1				1			
	図形情報ワークショップⅠ	1		1					
	図形情報ワークショップⅡ	2			2				
	ものづくりワークショップ	1		1					
	機構学	2				2			
	機械設計法	2	講義				2		
基礎製図Ⅰ	2		2						
基礎製図Ⅱ	2			2					
機械工学セミナー	1				1				
環境科学	*2	講義					2		
技術者倫理	*2	講義					2		
履修単位計	93			7	8	19	26	33	
選択科目	校外実習	1	実習				1		このうちから1科目2単位を選択する。 このうちから1科目1単位を選択する。
	材料力学Ⅲ	*2	講義					2	
	エネルギー機械	*2	講義					2	
	材料工学	1	講義					1	
	応用情報処理	1	講義					1	
	開設単位計	7					1	6	
履修単位計	3						3		
開設単位合計	100			7	8	19	27	39	
履修単位合計	96			7	8	19	26	36	

※ 単位数欄に「*」を記してある科目は学修単位を示し、記してない科目は履修単位を示す。

履修単位：1単位の授業科目を30単位時間（1単位時間は、標準50分）の履修とする単位。

学修単位：当該授業及び授業時間外の学修を含め、1単位の授業科目を45時間の学修とするもの。

(出典 平成19年度学生便覧)

資料5-1-①-6 電気情報工学科課程表

電気情報工学科 教育課程表

(平成19年度以降入学生)

区分	授業科目	単位	形態種別	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修 得科目	電気情報応用実験Ⅰ	3	実験				3		
	電気情報応用実験Ⅱ	3	実験					3	
	卒業研究	8	その他					8	
必修 修科目	応用数学Ⅰ	2	講義				2		
	応用数学Ⅱ	2	講義				2		
	応用物理Ⅰ	2				2			
	応用物理Ⅱ	2	講義				2		
	電気数学	1		1					
	電気製図	2		2					
	電気磁気学Ⅰ	2			2				
	電気磁気学Ⅱ	2			2				
	電気磁気学Ⅲ	*2	講義				2		
	電気回路Ⅰ	2			2				
	電気回路Ⅱ	2				2			
	電気回路Ⅲ	*2	講義				2		
	電気計測Ⅰ	1			1				
	電気計測Ⅱ	1				1			
	電子デバイスⅠ	2				2			
	電子デバイスⅡ	*2	講義				2		
	電気機器Ⅰ	2				2			
	電気機器Ⅱ	*2	講義				2		
	デジタル回路	2				2			
	電子回路Ⅰ	2	講義				2		
	電子回路Ⅱ	*2	講義					2	前期開講
	電力工学	*2	講義					2	
	制御工学	*2	講義					2	
	電気材料	*2	講義						2
	情報処理	2		2					
	プログラミングⅠ	2			2				
	プログラミングⅡ	2				2			
	コンピュータ工学	2	講義				2		
	情報ネットワーク工学	*2	講義					2	後期開講
	信号処理	2	講義					2	
	電気情報英語	1	演習					1	
	電気情報基礎実験Ⅰ	2		2					
	電気情報基礎実験Ⅱ	2			2				
	電気情報基礎実験Ⅲ	3				3			
電気情報工学演習	2	演習				2			
環境科学	*2	講義					2		
技術者倫理	*2	講義						2	
履修単位計	85			7	9	18	27	24	
選択 科目	校外実習	1	実習				1		
	パワーエレクトロニクス	*2	講義					2	前期開講
	ソフトウェア工学	*2	講義					2	1科目2単位を選択する。
	エネルギー変換工学	*2	講義					2	前期開講
	通信工学	*2	講義					2	1科目2単位を選択する。
	高電圧工学	*2	講義					2	後期開講
	数値計算工学	*2	講義					2	1科目2単位を選択する。
	電気機器設計	3	講義					3	1科目3単位を選択する。
	電子回路設計	3	講義					3	1科目3単位を選択する。
	電気法規	1	講義				1		1科目1単位を選択する。
情報通信法規	1	講義				1		1科目1単位を選択する。	
開設単位計	21					3	18		
履修単位計	10					1	9		
開設単位合計	106			7	9	18	30	42	
履修単位合計	95			7	9	18	28	33	

※ 単位数欄に「*」を記してある科目は学修単位を示し、記してない科目は履修単位を示す。

履修単位：1単位の授業科目を30単位時間（1単位時間は、標準50分）の履修とする単位。

学修単位：当該授業及び授業時間外の学修を含め、1単位の授業科目を45時間の学修とするもの。

(出典 平成19年度学生便覧)

資料5-1-①-7 電子制御工学科課程表

電子制御工学科 教育課程表

(平成19年度入学生以降)

区分	授業科目	単位	形態種別	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修 得科目	工学実験実習Ⅳ	3	実験				3		
	工学実験実習Ⅴ	3	実験					3	
	卒業研究	8	その他					8	
必修 修科目	応用数学Ⅰ	2	講義				2		
	応用数学Ⅱ	2	講義				2		
	応用物理Ⅰ	2				2			
	応用物理Ⅱ	2	講義				2		
	情報処理Ⅰ	2		2					
	情報処理Ⅱ	2			2				
	計算機概論	2				2			
	電磁気学Ⅰ	2			2				
	電磁気学Ⅱ	*2	講義				2		
	デジタル回路Ⅰ	1			1				
	デジタル回路Ⅱ	2				2			
	電気回路Ⅰ	2				2			
	電気回路Ⅱ	*2	講義				2		
	電子デバイス	*2	講義				2		
	電子計測	2				2			
	電気・電子回路演習	1				1			
	電子回路Ⅰ	2				2			
	電子回路Ⅱ	*2	講義				2		
	電子制御基礎	1		1					
	パルス回路設計	1	講義				1		
	電子制御設計	*2	講義					2	
	自動制御	*2	講義					2	
	マイコン制御	*2	講義					2	
	計算機工学Ⅰ	*2	講義				2		
	計算機工学Ⅱ	*2	講義					2	
	情報伝送	*2	講義					2	
	材料力学Ⅰ	2				2			
	材料力学Ⅱ	*2	講義				2		
	機械設計法	*2	講義				2		
	機械運動学	*2	講義				2		
	電気電子材料	*2	講義					2	
	基礎製図	2		2					
	設計製図	2			2				
ロボット制御工学	*2	講義					2		
工業数学	2	演習					2		
工学実験実習Ⅰ	2		2						
工学実験実習Ⅱ	2			2					
工学実験実習Ⅲ	3				3				
環境科学	*2	講義					2		
技術者倫理	*2	講義					2		
履修単位計	91		7	9	18	26	31		
選択 科目	校外実習	1	実習				1		
	熱流体工学概論	2	講義					2	1科目2単位を選択する。
	ソフトウェア工学	2	講義					2	
	電子物性	2	講義					2	1科目2単位を選択する。
	システム工学	2	講義					2	
	開設単位計	9					1	8	
履修単位計	4						4		
開設単位合計	100		7	9	18	27	39		
履修単位合計	95		7	9	18	26	35		

※ 単位数欄に「*」を記してある科目は学修単位を示し、記してない科目は履修単位を示す。

履修単位：1単位の授業科目を30単位時間（1単位時間は、標準50分）の履修とする単位。

学修単位：当該授業及び授業時間外の学修を含め、1単位の授業科目を45時間の学修とするもの。

(出典 平成19年度学生便覧)

資料5-1-①-8 物質工学科課程表

物質工学科 教育課程表

(平成19年度以降入学生)

区分	授業科目	単位	形態 種別	学 年 別 記 当					備 考	
				1年	2年	3年	4年	5年		
必修 得科目	物質工学基礎実験	3		3						
	分析化学基礎実験	3			3					
	有機化学基礎実験	3				3				
	生化学・微生物学基礎実験	3					3			
	物質工学実験Ⅰ	3	実験				3			
	物質工学実験Ⅱ	3	実験					3		
	卒業研究	12	その他						12	
	共通 必修科目	工業数学Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
		工業数学Ⅱ	*2	講義				2		後期開講
		応用物理Ⅰ	2				2			
		応用物理Ⅱ	2	講義				2		
		情報科学Ⅰ	1			1				
		情報科学Ⅱ	1				1			
		物質工学概論	1		1					
		物質工学基礎演習	1		1					
		基礎化学演習	1			1				
		物質工学創造実習	2			2				
		分析化学基礎	1			1				
		分析化学基礎演習	1				1			
		分析化学Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
		分析化学Ⅱ	*2	講義				2		後期開講
		無機化学基礎	1			1				
		無機化学・物理化学基礎演習	1	演習				1		
		無機化学Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
		無機化学Ⅱ	*2	講義				2		後期開講
		有機化学基礎	1			1				
		有機化学基礎演習	1				1			
		有機化学Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
		有機化学Ⅱ	*2	講義				2		後期開講
		物理化学基礎	1				1			
		物理化学Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
		物理化学Ⅱ	*2	講義				2		後期開講
		化学工学基礎	1				1			
		化学工学Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
		化学工学Ⅱ	*2	講義				2		後期開講
		生化学基礎	1			1				
		生化学基礎演習	1				1			
		生化学Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
		生化学Ⅱ	*2	講義				2		後期開講
		微生物学基礎	1			1				
		高分子化学基礎	1				1			
		材料・生物工学概論	1				1			
		情報工学Ⅰ	*2	講義				2		前期開講
		情報工学Ⅱ	*2	講義				2		後期開講
		環境科学基礎	1				1			
生産工学		1	講義					1		
機械工学概論		1	講義					1		
電気工学概論		1	講義					1		
環境科学		*2	講義					2		
技術者倫理		*2	講義					2		
履修単位計		94			5	11	18	41	19	
コース 必修科目		無機材料	*1	講義					1	前期開講
	有機材料	*1	講義					1	前期開講	
	高分子化学	*2	講義					2	前期開講	
	材料プロセス工学	*2	講義					2	前期開講	
	履修単位計	6						6		
	分子生物学	*2	講義					2	前期開講	
	酵素化学	*2	講義					2	前期開講	
	細胞工学	*1	講義					1	前期開講	
	応用微生物学	*1	講義					1	前期開講	
	履修単位計	6						6		
選択科目	校外実習	1	実習				1			
	開設単位計	1					1			
履修 単位 合計	開設単位合計	107		5	11	18	42	31		
	コース別開設単位合計	101		5	11	18	42	25		
	履修単位合計	100		5	11	18	41	25		

※ 単位数欄に「*」を記してある科目は学修単位を示し、記してない科目は履修単位を示す。
 履修単位：1単位の授業科目を30単位時間（1単位時間は、標準50分）の履修とする単位。
 学修単位：当該授業及び授業時間外の学修を含め、1単位の授業科目を45時間の学修とするもの。

(出典 平成19年度学生便覧)

資料5-1-①-9 建築学科課程表

建築学科 教育課程表

(平成19年度以降入学生)

区分	授業科目	単位	形態種別	学年別配当					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
必修 科目	卒業研究	6	その他					6	
	応用数学	2	講義				2		
	応用物理	2	講義				2		
	デザイン基礎Ⅰ	2		2					
	デザイン基礎Ⅱ	2			2				
	デザイン基礎Ⅲ	2				2			
	構造力学Ⅰ	2				2			
	構造力学Ⅱ	2					2		
	構造力学Ⅲ	2	講義					2	
	建築構造Ⅰ	2		2					
	建築構造Ⅱ	2			2				
	建築入門	1		1					
	建築材料	2	講義				2		
	木質構造	1	講義						1
	建築設備	2	講義						2
	鋼構造	2	講義						2
	鉄筋コンクリート構造	2	講義						2
	基礎構造	1	講義						1
	構造計画	2	講義						2
	建築計画Ⅰ	2				2			
	建築計画Ⅱ	2	講義				2		
	建築環境	2	講義				2		
	建築史Ⅰ	2				2			
	建築史Ⅱ	2	講義				2		
	都市計画Ⅰ	2	講義				2		
	都市計画Ⅱ	2	講義						2
	建築生産	2	講義						2
	建築情報Ⅰ	2			2				
	建築情報Ⅱ	2				2			
	設計製図Ⅰ	2		2					
	設計製図Ⅱ	3			3				
	設計製図Ⅲ	6				6			
	設計製図Ⅳ	6	実習				6		
	設計製図Ⅴ	3	実習						3
創造実験・演習	3	実験						3	
CAD・CG	2	演習				2			
近代建築論	2	講義						2	
建築ゼミナール	2	演習				2			
環境科学	*2	講義						2	
技術者倫理	*2	講義						2	
履修単位計	92		7	9	18	26	32		
選択 科目	校外実習	1	実習				1		
	構造解析	2	講義					2	
	建築意匠論	2	講義					2	
	開設単位計	5					1	4	
	履修単位計	2						2	
開設単位合計	97		7	9	18	27	36	1科目2単位を選択する。	
履修単位合計	94		7	9	18	26	34		

※ 単位数欄に「*」を記してある科目は学修単位を示し、記してない科目は履修単位を示す。

履修単位：1単位の授業科目を30単位時間（1単位時間は、標準50分）の履修とする単位。

学修単位：当該授業及び授業時間外の学修を含め、1単位の授業科目を45時間の学修とするもの。

(出典 平成19年度学生便覧)

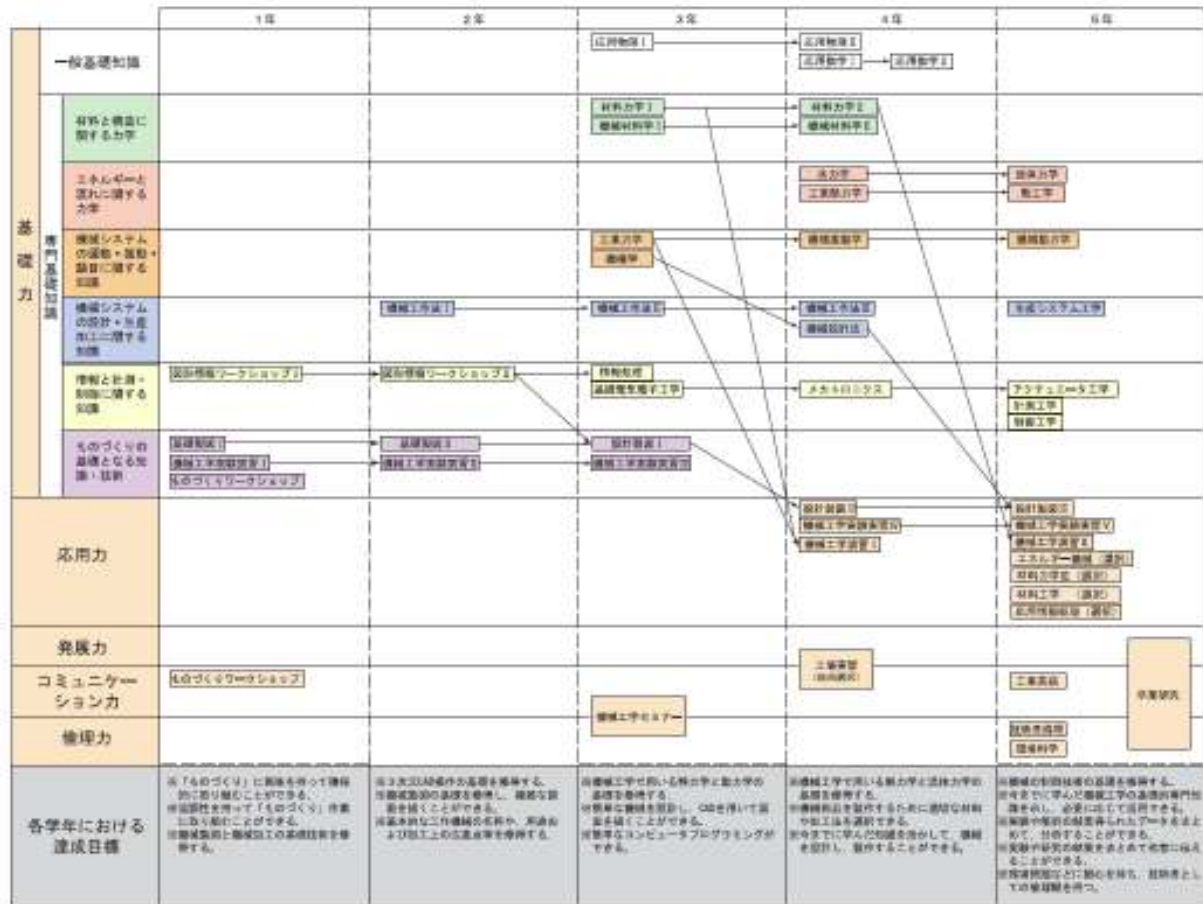
資料 5 - 1 - ① - 10 一般科目の科目系統図

学習教育目標	細目	授業科目				
		1年	2年	3年	4年	5年
基礎力	一般基礎知識	数学 I 数学 II 歴史 I 物理 I 化学 I (G科以外) 保健体育 I 音楽 I 情報リテラシー	微分積分 代数幾何 歴史 II 現代社会 物理 II 化学 II (G科以外) 保健体育 II 音楽 II	解析 I 解析 II 地理 保健体育 III	解析 III 保健体育 IV	保健体育 V
応用力						
発展力						
倫理力					クリテリウム 社会科学 I 社会科学 II 社会科学 III	
コミュニケーション力		国語 I 英語総合 I 基礎英語演習 I 基礎英語会話 I	国語 II 英語総合 II 基礎英語演習 II 基礎英語会話 II	国語 III 英語総合 III 基礎英語演習 III 基礎英語会話 III	文学 I 文学 II 文学 III 文学 IV 英語総合演習 独語	1科目選択 英米文学 実用工業英 英語演習 英語会話 コミュニケーション 時事英語 独語講読
各学年における達成目標		(数学) ・基礎的な数式の計算および応用ができること ・順列・組み合わせの計算ができること ・基礎的な関数の計算ができること (物理) ・運動方程式の基本的な計算ができること ・運動量、力学的エネルギーの保存則の基本的な計算ができること (化学) ・化学反応における簡単な量的関係を計算できること ・物質の変化、性質を、原子・分子などの微視的な視点から説明できること (体育) ・個人、集団スポーツの基礎技能を習得すること ・健康と体力に関する基礎知識を習得すること (社会) ・歴史的事実や現象を手がかりに日本地域における人類の進歩と発展の諸相を説明できること ・歴史のものの見方や考え方を習得すること (音楽) ・正しい発声と歌唱法を身につけること ・音楽の歴史、社会的背景、文化などを理解すること (国語) ・自分の考えを筋立てを立てて述べられること ・相手に応じた効果的な表現ができること ・文章を的確に読みとり、要約できること (外国語) ・基礎的な語彙、文法、表現力を身につけること ・基礎的な英語を読んだり書いたりできること ・簡単な日常会話ができること (情報) ・OSの基本操作や基本的なアプリケーションの操作ができること ・情報化社会で必要とされるネットワークやセキュリティなどの基礎知識を身に付けること	(数学) ・基礎的な微分、積分について理解し、応用できること ・数列について理解し、計算できること ・ベクトルについて理解し、その応用ができること (物理) ・物や波の性質を理解し、簡単な計算ができること ・電磁気現象に関する簡単な計算ができること (化学) ・代表的な物質の性質を説明できること ・各物質の特性を活かした利用例を説明できること (体育) ・個人、集団スポーツの基礎技能と応用技能を習得すること ・乗物・タレントの音や運動発現のしぐさを習得すること (社会) ・近代日本に関する歴史的事実を、世界史の動向とあわせて説明できること ・政治・経済・文化などとの関連や時代的因果関係において歴史を把握すること ・現代社会の諸問題に関する基礎概念を説明できること (音楽) ・ギターの基本的奏法を身につけること ・音楽に関する教養を身につけること (国語) ・目的や場に応じ、的確に話せること ・自分の考えを文章にまとめられること ・的確な文章の構成ができること (外国語) ・英文の概要や要点を読み取れること ・英語を聞き、書き、話し、聞く学習態度を身につけること ・会話に必要な語彙、会話表現を習得すること (外国語) ・新たな文法事項を修得し、語彙力を高めること ・英語を読み、書き、話し、聞くことにより、英語運用能力を高めること ・様々な英文にふれることで、異文化に対する理解を深めること	(数学) ・偏微分や2重積分の計算とその応用ができること ・固有値・固有ベクトルを理解し、その応用ができること ・行列式について理解し、その応用ができること (体育) ・個人、集団スポーツの応用技能と簡単なゲーム形式を習得すること ・運動技能の構造、運動と心理の関係、運動に関する知識を習得すること (社会) ・現代世界の地理的な諸課題を、地域性を踏まえて考察できること (国語) ・優れた表現に接し、自分の表現に役立てられること ・様々な文章を読んで、価値観の多様性が理解できること (外国語) ・幅広い敬業を養うこと ・日本語の読解力を身につけること ・レポート作成能力を身につけることが理解できること (外国語) ・総合的な基本的コミュニケーションができること ・幅広い敬業を養うこと ・日本語の読解力を身につけること ・レポート作成能力を身につけること	(数学) ・3重積分の計算とその覆うようができること ・基本的な微分方程式が解けること ・高次元関数について理解し、計算できること (体育) ・個人、集団スポーツの応用技能と正規のゲーム形式を習得すること ・運動処方に関する知識を習得すること (社会) ・社会が直面する諸問題の背景や課題について知見をえること ・社会文化・人間について幅広い見方を身につけること (社会) ・個人、集団スポーツのゲームを通して運籌方法や審判法を習得すること ・主語スポーツの実践に関する知識を身につけること (国語) ・幅広い敬業を養うこと ・日本語の読解力を身につけること ・レポート作成能力を身につけること	

(出典 教務部資料)

資料 5-1-①-11 機械工学科の科目系統図

機械工学科専門科目系統図（平成19年度以降の入学者）



(出典 教務部資料)

(分析結果とその根拠理由)

教育の目的に照らして、学年毎に適切に配置された教育課程を編成している。この教育課程は本校の教育目標に沿っており、教育目標を十分に達成できるように各科目を設定・配置している。また、各学科の教育目標に照らして、専門科目を適切に配置しており、教育課程の体系的性を確保している。

観点 5-1-②： 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他学科の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施、専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。

(観点に係る状況)

第4学年では夏季休業中に短期インターンシップ（校外実習）を実施しており、実働5日以上で1単位取得できる。校外実習に関する規定は別添資料5-1-②-1 (pp. 49-57)のように定めており、校外実習報告会は、公開して実施している。また、実習は県内外の企業をはじめ、大学等でも実施している。例として、平成18年度の実習先一覧を資料5-1-②-1に示す。

海外への留学に関する規定も備えており、年度途中から留学する場合でも、帰国後、出発前の在籍学年に復帰して進級できるように配慮している（資料5-1-②-2）。

補充教育は従来から各科目担当教員によって随時実施していたが、平成18年度からはオフィスアワーをシラバスに明記し、全学的に実施している（資料5-1-②-3）。

学習意欲のある学生に対しては、他高等教育機関での履修や単位認定ができるように別途規則を定めている（資料5-1-②-4）。

資料5-1-②-1 平成18年度校外実習先一覧

平成18年度機械工学科 校外実習先一覧

実 習 先	実習期間
鳥取オンキヨー(株)	7/24-7/28
日本電産(株)	7/24-7/28
神鋼テクノ(株)	8/7-8/11
豊橋技術科学大学	7/24-7/28
(株)カネカ高砂工業所	8/21-8/30
パナソニックエレクトロニックデバイス津山(株)	7/24-7/28
(株)A&M	7/24-7/28
ファミリー(株)	8/21-8/25
鳥取電機製造(株)	8/21-8/30
スパイシーソフト(株)	8/21-8/25
(株)神鋼エンジニアリング&メンテナンス	8/21-8/30
鳥取県金属熱処理協業組合	7/24-7/28
鳥取県金属熱処理協業組合	7/24-7/28
日本電産(株)	7/24-7/28
スパイシーソフト(株)	8/21-8/25
(株)片木アルミニウム製作所	8/21-8/25
スパイシーソフト(株)	8/21-8/25
ムラテックCCS(株)	7/24-7/29
(株)小松製作所	8/21-8/25
鳥取ビブラスティック(株)	7/24-7/28
ユニチカ(株)	7/31-8/9
(株)小松製作所	8/21-8/25
三菱重工(株)高砂製作所	7/31-8/8
シチズン時計(株)	8/10-8/23
(株)名南製作所	7/24-8/4
丸京製菓(株)	7/24-7/28
ヤマトエスロン(株)	8/21-8/25
(株)アイ・エイチ・アイ・アムテック	8/22-8/31
(株)明治製作所	7/31-8/4
東レエンジニアリング(株)	7/31-8/4
(株)米子シンコー	7/24-7/28
中外製薬工業(株)	7/31-8/4
倉吉尾池工業(株)	7/24-7/28
(株)カンセツ	8/21-8/25
村田機械(株)	8/18-8/30
(有)あっぷるはうす	7/24-7/28
塩野義製薬(株)	7/31-8/4
三菱重工(株)広島製作所	7/31-8/12
(株)米子シンコー	7/24-7/28
鳥取県金属熱処理協業組合	7/24-7/28
Associated Steel Industries (M) SDN. BHD.	7/31-8/4
協業組合菊水フォーシング	7/26-7/30
(株)アイ・エイチ・アイ・アムテック	8/22-8/31
協業組合菊水フォーシング	7/26-7/30

(資料5-1-②-1 平成18年度校外実習先一覧)

平成18年度電気工学科 校外実習先一覧

実習先	実習期間
航空自衛隊美保基地	8/21-8/25
航空自衛隊美保基地	8/21-8/25
航空自衛隊美保基地	8/21-8/25
(株)米子シンコー	7/24-7/28
(株)神鋼エンジニアリング&メンテナンス	8/21-8/30
岡田電工(株)	7/24-7/28
(株)中海テレビ放送	7/25-7/29
豊橋技術科学大学	8/7-8/11
東燃ゼネラル石油(株)	8/22-8/30
豊橋技術科学大学	7/18-7/22
(株)アイ・エイチ・アイ・アムテック	8/22-8/31
矢崎部品(株) 新見工場	8/7-8/11
ヤマトエスロン(株)	8/21-8/25
(株)名南製作所	7/24-8/4
鳥取県熱処理協業組合	7/24-7/28
鳥取県産業技術センター 機械素材研究所	8/21-8/25
中部電力(株)	8/7-8/11
豊橋技術科学大学	8/7-8/11
(株)カネカ高砂工業所	8/21-8/30
鳥取オンキョー(株)	7/24-7/28
豊橋技術科学大学	8/7-8/11
豊橋技術科学大学	8/7-8/11
中外製薬工業(株)	8/28-9/1
(株)米子シンコー	7/24-7/28
鳥取県産業技術センター 機械素材研究所	8/21-8/25
(株)中電工	8/21-8/29
鳥取県産業技術センター 機械素材研究所	8/21-8/25
鳥取県産業技術センター 機械素材研究所	8/21-8/25
(株)アイ・エイチ・アイ・アムテック	8/22-8/31
ヤマトエスロン(株)	8/21-8/25
長岡技術科学大学	7/31-8/4
岡田電工(株)	7/24-7/28
富士電機システムズ(株)	8/16-8/25
中国電力(株)	8/21-8/30
長岡技術科学大学	8/7-8/16
鳥取県熱処理協業組合	7/24-7/28
日新電機(株)	8/21-8/31
NTTファシリティーズ 中国支店	7/31-8/4
松下モータエキスパート(株)	8/23-8/29

(資料5-1-②-1 平成18年度校外実習先一覧)

平成18年度電子制御工学科 校外実習先一覧

実習先	実習期間
(株)アクティス	7/31-8/4
(株)ニッポー 島根工場	8/21-9/1
(株)Wave Technology	7/24-7/28
鳥取オンキヨー(株)	7/22-7/28
(株)A&M	7/24-7/28
航空自衛隊美保基地	8/21-8/25
王子製紙(株) 米子工場	8/21-8/31
オムロン(株)	8/21-9/1
(株)米子総合印刷センター	8/11-8/19
(株)Wave Technology	7/24-7/28
豊橋科学技術大学	8/7-8/11
(株)米子総合印刷センター	8/11-8/19
(株)日本マイクロシステム	7/31-8/4
ダイキン工業(株)	8/21-8/29
丸京製菓(株)	7/24-7/28
日本たばこ産業(株) 米子工場	7/24-8/1
日本たばこ産業(株) 米子工場	7/24-8/1
豊橋科学技術大学	7/18-7/28
神鋼テクノ(株)	8/7-8/11
三菱電機ビルテクノサービス(株)	7/24-8/4
長岡科学技術大学	7/25-7/31
(株)日本マイクロシステム	7/31-8/4
シチズン電子(株)	7/31-8/11
中国電力(株)	8/21-8/30
航空自衛隊美保基地	8/21-8/25
カトーレック(株)	8/21-9/1
東レエンジニアリング(株)	8/7-8/11
航空自衛隊美保基地	8/21-8/25
(株)ワイエヌエス	7/31-8/11
中外製薬工業(株)	8/21-8/25
航空自衛隊美保基地	8/21-8/25
ヤマトエスロン(株)	8/21-8/25
大山電機(株)	8/7-8/11
古野電気(株)	8/21-8/25
パナソニックエレクトロニックデバイス松江(株)	8/28-9/8
東亜ソフトウェア(株)	7/31-8/4
日本たばこ産業(株) 米子工場	7/24-8/1
(株)ワイエヌエス	7/31-8/11
東亜ソフトウェア(株)	7/31-8/4
鳥取県産業技術センター 機械素材研究所	8/21-8/25

(資料5-1-②-1 平成18年度校外実習先一覧)

実 習 先	実習期間
アースサポート(株)	7/24-7/28
アースサポート(株)	7/31-8/4
倉吉尾池工業(株)	7/24-7/28
サンイン技術コンサルタント(株)	7/31-8/4
花王(株)和歌山工場	7/25-8/2
(株)カネカ高砂工業所	8/21-8/30
鳥取県産業技術センター(食品開発)	7/18-7/24
(株)さんれい製造	8/1-8/5
島根県農業技術センター	8/21-8/25
鳥取県産業技術センター(食品開発)	7/18-7/24
鳥取県園芸試験果樹研究室	8/25-8/31
長岡技術科学大学	7/24-7/28
豊橋技術科学大学	7/18-7/28
鳥取ビブラコスティック(株)	7/24-7/28
米子市水道局	8/21-8/25
塩野義製薬(株)	7/31-8/4
(株)氷温研究所	7/24-7/28
鳥取県金属熱処理協業組合	7/24-7/28
長岡技術科学大学	7/24-7/28
鳥取県産業技術センター(食品開発)	7/24-7/28
甲陽ケミカル(株)	7/24-8/4
(株)氷温研究所	7/24-7/28
ダイキン工業(株)	7/31-8/11
(株)ジェイベック	8/21-8/25
米子汽缶化学研究所	7/31-8/4
昭和化学工業(株)研究所	7/24-7/28
倉吉尾池工業(株)	7/24-7/28
(株)片木アルミニウム製作所	8/21-8/25
(株)氷温研究所	7/24-7/28
島根県産業技術センター	8/7-8/11
サンイン技術コンサルタント(株)	7/24-7/28
共栄樹脂(株)	7/24-7/28
甲陽ケミカル(株)	7/24-8/4
鳥取県産業技術センター(食品開発)	7/24-7/28
サンイン技術コンサルタント(株)	8/7-8/11
出光興産(株)徳山製油所	7/24-8/3
(株)氷温研究所	7/24-7/28
(財)日本きのこセンター 菌茸研究所	7/24-7/28
(株)ジェイベック	8/21-8/25
サンイン技術コンサルタント(株)	7/24-7/28
東レ(株)	7/25-8/4
中外製薬工業(株)	8/28-9/1
(株)さんれい製造	8/1-8/5
(株)片木アルミニウム製作所	8/21-8/25

(資料5-1-②-1 平成18年度校外実習先一覧)

平成18年度建築学科 校外実習先一覧

実習先	実習期間
美保テクノス(株)	7/21-7/28
(株)フィディア(ホームデコ米子店)	7/24-7/29
(株)フィディア(ホームデコ米子店)	7/24-7/29
(有)竹山建築設計事務所	7/26-8/9
美保テクノス(株)	7/21-7/28
(株)桑本建築設計事務所	7/22-7/28
美保テクノス(株)	8/17-8/23
(有)やすのスペースデザイン	7/24-7/28
モノフ*デザイン	7/18-8/31
(株)伊東豊雄建築設計事務所	7/28-8/11
杵村建築設計事務所	7/24-7/31
(有)酒井建設	8/17-8/24
(株)大上建築	7/24-7/29
豊橋技術科学大学	7/31-8/11
豊橋技術科学大学	7/18-7/28
モノフ*デザイン	7/18-8/31
(株)白兔設計事務所	8/7-8/11
杵村建築設計事務所	7/24-7/31
モノフ*デザイン	7/18-8/31
モノフ*デザイン	7/18-8/31
豊橋技術科学大学	7/18-7/22
清水・株本・中村特別共同企業体	7/24-7/29
杵村建築設計事務所	7/24-7/31
モノフ*デザイン	7/18-8/31
(株)寺本建築・都市研究所	8/24-8/30
モノフ*デザイン	7/18-8/31
(有)やすのスペースデザイン	7/24-7/28
(有)江角建築事務所	7/24-7/31
モノフ*デザイン	7/18-8/31
モノフ*デザイン	7/18-8/31
(株)フィディア(ホームデコ境港店)	7/24-7/28
豊橋技術科学大学	7/18-7/28
(有)門脇構造研究所	7/24-7/28
豊橋技術科学大学	7/31-8/11
(有)石倉保富建築構造設計	7/24-7/28
(有)やすのスペースデザイン	7/22-7/28
エム・アイ・エー・アーキテツク(有)	7/31-8/12
美保テクノス(株)	7/21-7/28
モノフ*デザイン	7/18-8/31
(株)フィディア(ホームデコ松江店)	7/20-7/26
(有)ナック建築事務所	8/21-8/25
谷重義行+建築象形研究所	8/1-8/12
(有)松尾設計室	8/1-8/31
(株)マニエラ建築設計事務所	7/25-8/8

(出典 平成18年度教員会議資料より抜粋)

資料5-1-②-2 留学規則

○米子工業高等専門学校留学規則

(趣旨)

第1条 この規則は、米子工業高等専門学校学則第30条第4項の規定に基づき、米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）の学生の外国の高等学校又は大学（以下「外国の学校」という。）への留学の取扱いに関し、必要な事項を定めるものとする。

(留学許可)

第2条 校長は、次の各号に掲げる要件を満たしている場合において、これを許可することができる。

- (1) 留学先の外国の学校が、正規の教育機関であり体系的な教育課程を有していること。
- (2) 前号の外国の学校に在籍することを許可されていること。
- (3) 留学の目的が当該学生にとって教育上有益であると認められること。

(留学許可手続)

第3条 留学を希望する学生は、学級担任及び所属の学科主任を経て、原則として留学しようとする日の3箇月前までに留学願（別紙様式第1号）に、次の各号に掲げる書類を添えて校長に願出しなければならない。

- (1) 留学先の外国の学校の沿革、規模、教育方針及び教育課程等が記載されている書類
- (2) 前号に定める外国の学校への在学許可を証明する書類
- (3) その他校長が必要と認める書類

(留学期間等)

第4条 当該学生の留学期間は、10箇月以上1年以内とする。ただし、留学期間中において、やむを得ない事情があると認められるときは、留学期間の短縮又は延長（1年以内に限る。）を許可することがある。

2 留学期間を短縮又は延長しようとするときは、学級担任及び所属の学科主任を経て、留学期間変更願（別紙様式第2号）を校長に提出し、その許可を得なければならない。

3 前2項による留学の期間は、本校の修業年限に含めるものとする。

(終了報告)

第5条 当該学生は、留学期間が終了したときは、留学終了報告書（別紙様式第3号）、外国の学校の長が発行した単位修得証明書、成績証明書及び出席状況証明書等を速やかに所属の学生主任を経て校長に提出しなければならない。

(単位修得認定及び評価)

第6条 留学期間中の単位の修得認定は、個々の科目については行わず、教務委員会が前条で提出された単位修得証明書、成績証明書及び出席状況証明書等に基づき良好に学習をしたと認める場合には、30単位を超えない範囲で一括認定し、評価は行わない。

2 第4条第2項の規定に基づき留学期間の短縮を許可された場合において、当該留学期間が10箇月に満たなくなったときは、原則として前項の単位の認定は行わないものとする。

(課程修了の認定)

第7条 復帰の際の学年については、認定会議に付し校長が認定する。

(留学取消し)

第8条 校長は、当該学生が次の各号の一に該当する場合は、当該外国の学校の長と協議の上、留学の許可を取り消すことができる。

- (1) 履修の見込みがないと認められるとき。
- (2) 当該外国の学校の規則等に違反し、留学の取り消しを求められたとき。

資料 5-1-②-2 留学規則

(3) その他留学の目的に著しく反する行為があると認められたとき。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、この規則の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則 (平成8年3月6日規則第13号)

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則 (平成10年2月6日規則第1号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

(出典 平成19年度学生便覧)

資料 5-1-②-3 平成18年度オフィスアワーの実施科目数

学年	一般科目	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科
1	7	2	1	2		3
2	7	2	2	2	4	3
3	4	4	3	5	4	5
4	3	10	8	9	8	5
5	7	9	5	9	5	6

(出典 平成18年度シラバスより抜粋)

資料 5-1-②-4 他高等教育機関における履修規則

○米子工業高等専門学校高等専門学校以外の教育施設等における学修等に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、米子工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第15条第3項の規定に基づき、米子工業高等専門学校（以下「本校」という。）の学生の高等専門学校以外の教育施設等における学修等に関し、必要な事項を定める。

(学修手続)

第2条 学生は、大学における学修又は第3条第1号から第3号に規定する教育施設において学修しようとするときは、高等専門学校以外の教育施設等における学修許可願（別紙様式第1号）に関係文書を添えて、校長の許可を受けなければならない。

2 校長は、前項による願い出が教育上有益と認めたときは、認可するものとする。

(文部科学大臣が別に定める学修)

第3条 学則第15条第1項に規定する文部科学大臣が別に定める学修とは、次の各号に掲げる学修をいう。

(1) 大学又は短期大学の専攻科における学修

(2) 高等専門学校の専攻科における学修

(3) 専修学校の専門課程のうち修業年限が2年以上のものにおける学修で、本校において高等専門学校教育に相当する水準を有すると認めたもの

(4) 文部科学大臣の認定を受けた技能審査の合格に係る学修で、別表に定めるもの

(5) 前項の学修以外に、本校が適切と認める別表の技能検定及び資格試験で、教官の指導のもとで演習等を行い、合格したもの

(単位認定申請)

第4条 学生は、大学における学修又は前条各号の一に規定する学修を行い、単位の認定を受けようとするときは、高等専門学校以外の教育施設等における学修単位認定申請書（別紙様式第2号）に、当該学修を行った教育施設等の長の交付する単位修得証明書、成績証明書又は合格証書等を添えて校長に申請するものとする。

2 校長は、前項の規定により申請のあった学修について、認定会議に付し、相当する単位を本校における授業科目等の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

3 前条第4号及び第5号に規定する学修について認定することができる単位数は、別表に定める試験の種類ごとの級に対応する単位数とする。ただし、同一の試験の種類で複数の級に合格した場合は、上位の級に対応する単位数とする。

附 則（平成5年2月9日規則第3号）

1 この規則は、平成5年2月3日から施行する。

2 この規則施行の際現に在籍する学生で、在籍中に第3条第4号による技能審査に合格している者の修得単位の取扱いについては、本規則の規定により学修したものとみなす。

附 則（平成7年1月11日規則第1号）

この規則は、平成7年1月11日から施行する。

附 則（平成8年2月7日規則第9号）

この規則は、平成8年2月7日から施行する。

附 則（平成10年2月6日規則第1号）

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則（平成13年4月2日規則第4号）

この規則は平成13年4月2日から施行し、平成13年1月6日から適用する。

附 則（平成16年1月21日規則第1号）

この規則は、平成16年1月21日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

別表 英語自由選択

試験の種類	等級または点数	単位数	認定学年
実用英語技能検定試験	準2級	2	1～5学年
	2級	3	1～5学年
	準1級	6	1～5学年
	1級	8	1～5学年
工業英語能力検定試験	4級	1	1・2学年
	3級	2	1～5学年
	2級	4	1～5学年
	1級	6	1～5学年
TOEIC	400点	2	1～5学年
	500点	3	1～5学年
	600点	4	1～5学年
	700点	5	1～5学年
	750点	6	1～5学年
	800点	7	1～5学年
	900点	8	1～5学年

備考 1. 英語自由選択の単位として認定できるのは合計8単位を上限とする。

2. 工業英語能力検定試験4級の合格に係る学修は、第2学年までの合格者に限る。

(出典 平成19年度学生便覧)

(分析結果とその根拠理由)

第4学年の校外実習（インターンシップ制度）を実施することにより、教育効果を上げている。意欲をもった学生に対しては、留学制度や他高等教育機関における履修等を認めている。また、オフィスアワーも全学的に取り組んでおり、学生の多様な学習機会を確保している。

観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。）

(観点に係る状況)

資料5-2-①-1は、準学士課程における一般科目及び各専門科目の講義、演習、実験実習等の授業形態の内訳を示している。専門科目における実験・実習、演習及び卒業研究の単位数は、最も割合が少ない電気情報工学科でも開設単位数の25.5%、最も割合が多い建築学科では開設単位数の41.2%を配置している。また、これらの実験・実習、演習は特定の学年に集中することなく第1学年から第5学年にわたってバランスよく配分しており、高専の特色である5年間一貫教育システムを活かして、本校の教育理念である創造性の育成と実験・実習を重視した実践的技術教育が実現できるよう編成している。

一般科目においては、第1学年の数学Ⅰ、数学Ⅱ、第2学年の微分・積分、代数・幾何で習熟度別授業を実施している。例として、数学Ⅰのシラバスを資料5-2-①-2に示す。学生の習熟度に応じたクラス編成は25年以上前から実施しており、学科間の枠にとらわれない編成によって教育効果を上げている。さらに第4学年の英語総合演習では、eラーニング導入するなどの工夫を行っている（資料5-2-①-3）。

情報機器や視聴覚機器の活用も積極的に行っている。資料5-2-①-4は、平成16年度から19年度における情報端末室及び視聴覚機器を整備した教室、講義室等の稼働率を示している。それぞれ

の部屋の稼働率は平均して 60%前後であり、全授業時間の 25～30%程度が情報機器、視聴覚機器を備えた教室で実施している。また、平成 19 年度より供用が開始される e-L 教室も 1 週間あたり 17 時間の利用を予定している。

資料5-2-①-1 授業形態毎の開設単位数表

一般科目	講義	演習	実験・実習	実技	その他 (卒業研究)	開設 単位数
1学年	27	1		4		32
2学年	21	1		3		25
3学年	13	1		2		16
4学年	19	2		2		23
5学年	12	2		1		15
合計	92	7		12		111

機械工学科	講義	演習	実験・実習	実技	その他 (卒業研究)	開設 単位数
1学年	1	3	3			7
2学年	3	2	3			8
3学年	14	2	3			19
4学年	19	4	4			27
5学年	24	4	3		8	39
合計	61	15	16		8	100

電気情報 工学科	講義	演習	実験・実習	実技	その他 (卒業研究)	開設 単位数
1学年	3	2	2			7
2学年	7		2			9
3学年	15		3			18
4学年	24	2	4			30
5学年	30	1	3		8	42
合計	79	5	14		8	106

電子制御 工学科	講義	演習	実験・実習	実技	その他 (卒業研究)	開設 単位数
1学年	3	2	2			7
2学年	5	2	2			9
3学年	14	1	3			18
4学年	23		4			27
5学年	26	2	3		8	39
合計	71	7	14		8	100

物質工学科	講義	演習	実験・実習	実技	その他 (卒業研究)	開設 単位数
1学年	1	1	3			5
2学年	5	1	5			11
3学年	9	3	6			18
4学年	34	1	7			42
5学年	19				12	31
合計	68	6	21		12	107

建築学科	講義	演習	実験・実習	実技	その他 (卒業研究)	開設 単位数
1学年	3	2	2			7
2学年	4	2	3			9
3学年	10	2	6			18
4学年	16	4	7			27
5学年	22	2	6		8	38
合計	55	12	24		8	99

(出典 平成19年度学生便覧より算出)

資料5-2-①-2 数学Iのシラバス

対象学科	全学科	担当教員	■■■■■・■■■■■・■■■■■・■■■■■・■■■■■		
授業科目名	数学I	科目コード			
学年	1学年	開講学期	通年	単位数	3単位
区分	必履修	授業の形態			
単位種類					
授業概要	整式の計算、数、集合と命題、等式と不等式、点と直線、円と2次曲線、不等式と領域、図形の性質、場合の数と二項定理について学習する。				
関連する本校の学習教育目標	A	関連するJABEE学習教育目標	A		
到達目標	数式の基礎的な計算および応用ができること 方程式・不等式の解法を理解すること 平面2次曲線の性質を理解すること				
授業の進め方とアドバイス	習熟度別クラス編成をとっている。教科書を中心に講義を進め、教科書、問題集の間を割り当て、板書による添削を行う。質問は随時受け付ける。なお、担当教員以外に質問しても良い。				
授業内容スケジュール	回数	授業内容			
	第1週	1章 § 1 整式の加法・減法			
	第2週	整式の乗法			
	第3週	因数分解			
	第4週	整式の除法			
	第5週	整式の約数・倍数			
	第6週	有理式／繁分数式			
	第7週	1章 § 2 実数／実数の大小関係			
	第8週	※前期中間試験			
	第9週	平方根を含む式の計算			
	第10週	3章 § 6 集合			
	第11週	命題			
	第12週	3章 § 7 恒等式／因数定理			
	第13週	3次方程式・4次方程式			
	第14週	高次の不等式			
	第15週	等式・不等式の証明／組立除法			
		※前期末試験			
	第16週	6章 § 15 直線上の点の座標／平面上の点の座標			
	第17週	直線の方程式			
	第18週	2直線の関係			
	第19週	6章 § 16 円			
	第20週	2次曲線			
	第21週	6章 § 17 不等式の表す領域			
	第22週	領域における最大・最小			
	第23週	※後期中間試験			
	第24週	6章 § 18 三角形と比			
	第25週	円と角			
	第26週	重心・外心・内心・垂心			
	第27週	7章 § 19 場合の数			
	第28週	順列			
	第29週	組み合わせ			
	第30週	二項定理			
		※学年末試験			
教科書	田代嘉宏ほか「新編高専の数学1」森北出版、田代嘉宏「新編高専の数学1問題集」森北出版				
参考書	三ッ廣 孝「大学・高専生のための 解法演習 基礎数学」森北出版				
関連教科	専門科目を含むほとんどの科目				
基礎知識	中学までの数学				
成績の評価方法	総合評価割合	成績は定期試験(70%)、演習など(30%)により評価する。			
	定期試験	70%			
	レポート	%			
	演習・小テスト	30%			
	その他	%			
		100%			
備考					

(出典 平成19年度シラバス)

資料 5 - 2 - ① - 3 総合英語演習のシラバス

対象学科	全学科		担当教員	一般科目 ■■■■	
授業科目名	英語総合演習		科目コード		
学年	4学年	開講学期	通年	単位数	2単位
区分	必修	授業の形態	演習	単位種類	履修
授業概要	eI教室において各自が端末を利用し、サーバー上にある英語学習ソフト(アルク・ネット・アカデミー・スーパー・スタンダードコース)を学習する。リスニング・リーディングを主体に、語彙を増やすための単語道場、TOEIC模擬試験なども実施する。				
関連する本校の学習教育目標	社会とかがわかるためのコミュニケーション力を身につける	関連するJABEE学習教育目標	日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力		
到達目標	1. 様々な場面での日常会話を的確に聞き取り、速やかに応答する能力を養う 2. 英文を素早く的確に読み取るための語彙力、文法力を高める 3. 積極的に英語で意思の疎通を図ろうとする態度を養う				
授業の進め方とアドバイス	各自が自分のペースで学習してよいが、決められた期日までに指定されたユニットの学習を終えていない場合は、水曜日の放課後にeI教室でオフィスアワーを実施するので、学習を終えること。				
授業内容	回数	授業内容			
スケジュール	第1週 : ガイダンス 第2週 : レベル診断テスト 第3週 : レベル1 リスニング1ユニット・リーディング1ユニット 第4週 : レベル1 リスニング2ユニット・リーディング1ユニット 第5週 : レベル1 リスニング1ユニット・リーディング2ユニット 第6週 : レベル1 リスニング2ユニット・リーディング1ユニット 第7週 : レベル1 リスニング1ユニット・リーディング2ユニット 第8週 : レベル1 リスニング2ユニット・リーディング1ユニット 第9週 : レベル1 リスニング1ユニット・リーディング2ユニット 第10週 : レベル1 復習テスト 第11週 : レベル1 復習テスト 第12週 : レベル2 リスニング1ユニット・リーディング1ユニット 第13週 : レベル2 リスニング2ユニット・リーディング1ユニット 第14週 : レベル2 リスニング1ユニット・リーディング2ユニット 第15週 : レベル2 リスニング2ユニット・リーディング1ユニット 前期期末試験 第16週 : レベル2 リスニング1ユニット・リーディング2ユニット 第17週 : レベル2 リスニング2ユニット・リーディング1ユニット 第18週 : レベル2 リスニング1ユニット・リーディング2ユニット 第19週 : レベル2 復習テスト 第20週 : レベル2 復習テスト 第21週 : レベル3 リスニング1ユニット・リーディング1ユニット 第22週 : レベル3 リスニング2ユニット・リーディング1ユニット 第23週 : レベル3 リスニング1ユニット・リーディング2ユニット 第24週 : レベル3 リスニング2ユニット・リーディング1ユニット 第25週 : レベル3 リスニング1ユニット・リーディング2ユニット 第26週 : レベル2 リスニング2ユニット・リーディング1ユニット 第27週 : レベル2 リスニング1ユニット・リーディング2ユニット 第28週 : レベル3 復習テスト 第29週 : TOEIC演習テスト 第30週 : TOEIC演習テスト 学年末試験				
教科書					
参考書					
関連教科	1・2・3年次の英語総合・英語基礎演習・基礎英会話				
基礎知識					
成績の評価方法	総合評価割合				
	定期試験	40%			
	レポート	%			
	演習・小テスト	40%			
	その他	20%			
		100%			
備考	演習・小テストは指定されたユニットの学習終了を意味し、その他はユニット中のアドバンスポイント、単語道場ポイントを意味する。				

(出典 平成 19 年度シラバス)

資料5-2-①-4 情報・視聴覚機器使用率表

	H16	H17	H18	H19
講義室1～3	65.7%	61.0%	75.2%	75.2%
選択教室1～3	62.9%	59.0%	62.9%	64.8%
合同講義室	60.0%	60.0%	62.9%	62.9%
第3ゼミ室	51.4%	65.7%	51.4%	51.4%
視聴覚教室	40.0%	40.0%	31.4%	34.3%
第1・第2端末室	64.3%	67.1%	78.6%	67.1%
e-L教室				48.6%
全授業に占める割合	26.3%	26.1%	28.4%	29.7%

(1週は35時間として算出)

(出典 時間割より抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

一般科目及び各専門科目の講義、演習、実験実習等の授業形態は、特定の学年に集中することなく第1学年から第5学年にわたってバランスよく配分しており、本校の教育理念である創造性の育成と実験・実習を重視した実践的技術教育が実現できるように編成している。また、低学年の数学系科目で習熟度別授業や高学年の英語系科目でe-ラーニングを導入するなどの工夫を行っている。さらに、情報機器や視聴覚機器の活用も積極的に行っている。

観点5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

(観点に係る状況)

教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバス作成上の注意事項を教員に周知し、適切に作成している(別添資料5-2-②-1)。シラバスは統一した様式でまとめて校内Webページに掲載しており、学生は校内のパソコンから自由に閲覧できる状態にある(資料5-2-②-1)。また、平成19年度からは校外への公開を準備している。

各科目のシラバスには、授業の目標と内容、到達目標、学校の学習・教育目標との関連、評価方法などを明記している。授業内容は各科目の目標を達成できるように、担当教員によって設定されており、授業評価アンケート結果などを反映して毎年更新している。また、初回の授業では受講学生に対してガイダンスを行い、シラバスを用いて授業内容の説明を行っている。

シラバスは、学生が選択授業の内容確認や各授業の評価方法などの確認、大学編入学者が単位読み替えのときの提出資料として活用している。

資料 5 - 2 - ② - 1 シラバスの具体例

対象学科	機械工学科	担当教員	■■■■
授業科目名	機械工作法III	科目コード	
学年	4学年	開講学期	通年
区分	必修	授業の形態	講義
		単位数	1単位
		単位種類	履修
授業概要	本授業は機械工学を専攻する技術者として、生産加工技術、機械設計を志す場合は特に重要な科目となる。機械工作法の実践的な技術は日進月歩で、その発達の場合は驚くばかりである。あらゆる技術の最先端を述べることはできないので、機械工作の考え方の基本となる理論的な面を中心に理解を深め、機械加工においてより普遍的に応用ができるようにする。		
関連する本校の学習教育目標	(A)	関連するJABEE学習教育目標	(A)
到達目標	切削および研削加工において、加工材料に適した工具で、理想的な切屑を出し、適度の工具寿命を保ち、能率よく、要求精度の製品を作り出すための基本的な考え方を習得する。具体的には (1) 切削理論、研削理論の基礎知識が理解されること。 (2) 工具も摩耗し、どのようなときどのような摩耗・損傷をするか理解すること。 (3) 製品の精度、加工の経済性について理解する。 (4) 各種の加工の実際について概要を理解する。		
授業の進め方とアドバイス	2、3年で学習した鋳物、溶接、鍛造、塑性加工に引続き、切削加工に代表される除去加工について学ぶ。ここでは主として、切削加工理論、加工法等につき座学によって授業を進めるが、すでに機械工作実験・実習にて基礎的な加工技術については習得しているため、そこで使用したテキストによる復習、また教科書以外の専門書による勉強等により自ら理解を深める努力も欲しい。		
授業内容スケジュール	回数	授業内容	
	第1週	機械加工法の分類、工作機械とその特質	
	第2週	切削工具材料、発達の歴史、工具材料各論	
	第3週	超硬合金、最近の超硬合金、被覆超硬合金	
	第4週	工具形状、切削工具の角度とその作用	
	第5週	切屑の生成と構成刃先、チッププレーカ	
	第6週	切屑生成における力と変形I(切削機構の解明、切削抵抗)	
	第7週	切屑生成における力と変形II(せん断面の平均せん断応力と垂直応力、せん断ひずみ)	
	第8週	前期中間試験	
	第9週	前期中間試験の復習	
	第10週	切削熱の発生と切削温度、切削熱による温度上昇の影響	
	第11週	工具の摩耗とその形態	
	第12週	工具寿命と寿命方程式、被削性と影響因子	
	第13週	機械加工の経済性と切削条件、旋盤による外丸削りの経済性	
	第14週	加工面の品位と表面あらさ	
	第15週	切削油剤	
		前期末試験	
	第16週	前期末試験の復習	
	第17週	旋盤作業と各種旋盤	
	第18週	穴あけ作業と各種ボール盤	
	第19週	ドリルとその切削機構、リーマ加工その切削機構	
	第20週	中ぐりと中ぐり盤	
	第21週	フライス盤作業と各種フライス盤フライス	
	第22週	フライス加工と切削	
	第23週	後期中間試験	
	第24週	後期中間試験の復習	
	第25週	歯車と歯切り法	
	第26週	研削加工と研削砥石	
	第27週	研削理論I(砥粒切込み深さと接触弧長さ)	
	第28週	研削理論II(砥粒切込み深さと接触弧長さの役割)	
	第29週	研削作業の形態と研削盤作業	
	第30週	総まとめ	
		学年末試験	
教科書	橋本文雄、朝倉健二「機械工作法II」共立出版		
参考書	藤村善雄「実用切削加工法 第2版」共立出版		
関連教科	機械工作法(2、3年)、機械材料学、機構学		
基礎知識	物理、化学、数学、機械工学実験・実習		
成績の評価方法	総合評価割合	本授業の到達目標を達成することができたかを左の割合で評価します。定期試験以外に、適宜レポートを課します。受講生の皆さんはレポートの作成を通じて、授業で学習した内容をより深く追求するように心がけてください。	
	定期試験	70%	
	レポート	30%	
	演習・小テスト	%	
	その他	%	
備考		100%	

(出典 平成 19 年度シラバス)

(分析結果とその根拠理由)

シラバスを適切に整備しており、授業開始時のガイダンスや選択授業の履修選択時において、広く活用している。

観点5-2-③： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

(観点に係る状況)

オープンエンド問題に対する課題達成型授業などを取り入れ、創造性を育む教育を試みている科目は資料5-2-③-1に示すとおりであり、創造性の育成は全学科で取り組んでいる。例として、機械工学実験実習Ⅳのシラバスを資料5-2-③-2に示す。

インターンシップは技術者教育にとって効果的な教育方法との認識のもと、本校では準学士課程において「校外実習」として第4学年の夏季休暇期間に実施し、その実施内容を規程(別添資料5-1-②-1, pp.49-57)に従って評価した後、単位を認めている。

資料5-2-③-1 創造性を育む教育を実施している科目名

学年	学科	科目名	学年	学科	科目名	学年	学科	科目名
1	M	ものづくりワークショップ	4	M	機械工学実験実習	5	全	英米文学
1	M	英語総合	4	E	電気工学演習	5	M	機械工学実験実習
1	C	基礎化学実験	4	E	保健・体育	5	E	電気工学実験Ⅰ
2	E	電気回路Ⅰ	4	D	設計製図	5	D	エネルギー工学
2	D	工学実験実習	4	D	電気回路	5	D	機器制御
2	A	建築設計製図Ⅰ	4	A	CAD	5	D	情報伝送
2	A	情報処理	4	A	建築ゼミ	5	A	建築設備
3	A	デザイン基礎	4	A	都市計画	5	A	都市計画特論
3	A	建築計画						
3	A	情報処理						

M：機械工学科，E：電気情報工学科，D：電子制御工学科，C：物質工学科，A：建築学科

全：以上5学科

(平成18年度シラバスより抜粋)

資料 5-2-③-2 機械工学実験実習Ⅳのシラバス

対象学科	機械工学科	担当教員	■■■■■, ■■■■■, ■■■■■, ■■■■■, ■■■■■, ■■■■■, ■■■■■, ■■■■■, ■■■■■, ■■■■■		
授業科目名	機械工学実験実習Ⅳ	科目コード			
学年	4学年	開講学期	通年	単位数	3単位
区分	必修得	授業の形態	実験	単位種類	履修
授業概要	<p>この講義は本校の教育目標のうち専門分野における「基礎力」、「応用力」を養う科目である。工学知識の実証(解析結果正否の実験による確認、各種センサ、アクチュエータなど応用技術の習得、規格による性能試験)、実証手段、方法の習得、知識理解の助長、実験報告書作成方法の習得、実証方法改善の模索など実験を通して教育をする。</p> <p>また、総合実習により創造性を高め、実験実習の総合判断を行う。</p>				
関連する本校の学習教育目標	(A)(B)	関連するJABEE	学習教育目標		
到達目標	<p>機械工学実験実習では専門教科の知識の理解と応用力を高め、また報告書作成能力を身につけることを目標とし、実験で経験した過程と、得た結果によって「考える」すなわち考察することで、創造力ある仕事ができるようにする。</p>				
授業の進め方とアドバイス	<p>クラスを5班に分け、ローテーションで各分野の実験を行う。それぞれの実験について、レポートを提出し、そのレポート内容について指導を毎回行う。実験を行わないとレポートを書くことができないので、必ず出席するように努力し、自ら考える力を養うよう努力すること。実験内容およびレポートに関する質問は随時受け付けるので、各実験担当教員の研究室を訪ねること。</p>				
授業内容スケジュール	回数	授業内容			
	第1週:	機械工学実験ガイダンス、レポートの書き方(全員)			
	第2週:	熱工学実験1			
	第3週:	熱工学実験レポート指導			
	第4週:	熱工学実験2			
	第5週:	熱工学実験レポート指導			
	第6週:	流体工学実験1			
	第7週:	流体工学実験レポート指導			
	第8週:	流体工学実験2			
	第9週:	流体工学実験レポート指導			
	第10週:	金属材料実験1			
	第11週:	金属材料実験レポート指導			
	第12週:	金属材料実験2			
	第13週:	金属材料実験レポート指導			
	第14週:	材料力学実験1			
	第15週:	材料力学実験レポート指導			
	第16週:	材料力学実験2			
	第17週:	材料力学実験レポート指導			
	第18週:	計測工学実験			
	第19週:	計測工学実験レポート指導			
	第20週:	機械力学実験1			
	第21週:	機械力学実験レポート指導			
	第22週:	機械力学実験2			
	第23週:	機械力学実験レポート指導			
	第24週:	総合実習1			
	第25週:	総合実習2			
	第26週:	総合実習3			
	第27週:	総合実習4			
	第28週:	総合実習5			
	第29週:	総合実習6			
	第30週:	総合実習7			
	(各々の実験ごとにローテーションを組み、実験を行う。)				
教科書	プリント				
参考書	専門科目に用いられる教科書すべて				
関連教科	機械工学科全教科				
基礎知識	機械工学科全教科				
成績の評価方法	総合評価割合	各々の実験ごとに100点満点(実験態度10点、レポート提出点20点、レポート点70点)で採点を行い、全実験について単純平均し、総合評価とする。			
	定期試験	0%	レポート未提出が1テーマでもあれば評価対象としないので必ずレポートを提出すること。		
	レポート	70%			
	演習・小テスト	0%			
	その他	30%			
備考	100%				

(平成18年度シラバスより抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

創造性の育成はあらゆる科目で配慮されており、ほぼ満足できる程度に実施している。インターンシップについてはその制度も確立され、十分活用できている。

観点5-3-①： 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価や進級・卒業認定の判断基準は規則として制定している。成績評価や進級認定、卒業認定の規則などは学生便覧に記載しており、学生に周知している(資料5-3-①-1)。特に、入学生に対しては入学式後のオリエンテーション(資料1-2-①-8, 12 ページに前出)、4年次編入学生に対しては入学前の説明会で詳細に説明している(資料5-3-①-2)。

進級及び卒業の認定は、全教員が出席する進級認定会議により決定している。会議の席では、全学生の成績一覧を提示するとともに、進級及び卒業の規定に抵触する学生の一覧をもとに審議しており、適切に実施している(資料5-3-①-4~5, 訪問調査時に提示)。なお、第1~4学年の進級に関しては落差単位に関する内規(資料5-3-①-1)を設けており、厳正かつ慎重に運用している。また、欠課時数及び成績評価は、学生からの訂正等の申出期間を設けて最終確認している。不合格単位を持って進級した学生に対しては進級した学年で再学習を行い、その後の追認試験によって単位を再評価している(別添資料5-1-②-1, pp. 29-30)。追認試験の受験者数及び合格者数を資料5-3-①-3に示す。低学年ではほとんどの学生が追認試験で単位を取得している。

資料5-3-①-1 学業成績の評価及び修了の認定に関する内規

○米子工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了の認定に関する内規

(履修義務)

第1条 履修する授業科目(以下「科目」という。)は放棄を認めず、すべて課程修了認定の対象とする。

(学業成績の評価)

第2条 学業成績は、総合評価(定期・中間試験その他の試験のほかに、出席状況、学習態度、演習の成果等を総合的に判定した評価)とする。学年中途の成績についても、これに準じて評価し、欠課時数とともに学年始めからの総計とする。

2 学業成績は、優・良・可・不可の標語で評価し、科目担当教官が、その科目の評価を表示する場合(以下「評価点」という。)は、100点法によるものとし、次の区分とする。

標語	評価点
優	80点以上
良	70点以上80点未満
可	60点以上70点未満
不可	60点未満

3 校外実習の学業成績の評価は、前2項の規定にかかわらず、合格又は不合格とする。

4 米子工業高等専門学校高等専門学校以外の教育施設等における学修等に関する規則（以下「高専以外の学修等規則」という。）第4条第2項の規定により単位の認定を受けた科目の学業成績は、第1項及び第2項の規定にかかわらず、科目担当教官が合格の評価をする。

5 追認試験で合格と認定された未修得科目の学業成績の評価は、可（60点）とする。

（学業成績の評価をしない科目）

第3条 次の各号の一に該当する科目は、学業成績を評価しないものとする。

（1）欠課時数が年間授業時数の5分の1を超える科目。この場合においては、欠課時数のみを表示する。

（2）履修放棄と認めた科目

（特別に学修成績の評価ができる科目）

第4条 欠課時数が、年間授業時数の5分の1を超え3分の1以下の科目で、病気その他の理由（診断書等添付）により、やむを得ないと認定会議で認められたものについては、前条の規定にかかわらず、科目担当教官（非常勤講師の担当する科目は、当該非常勤講師の意を受けて、各教科代表又は学科主任等が代行する。）が、学業成績の評価をする。

ただし、長期にわたる病気による欠課時数が、年間授業時数の3分の1を超える科目であっても、特別な状況にあると認定会議で認められたものについては、学業成績の評価をすることができる。

（試験）

第5条 定期試験は、前期末及び学年末試験とし、年間各1回行う。その他の試験は、随時行うものとする。

2 平素の成績で学業成績を評価しうる科目については、試験を行わないことがある。

（追試験）

第6条 試験に欠席した者で、忌引、特別欠席・欠課及び病気その他の理由により、やむを得ないと認められる場合には、追試験を行うことがある。

（再試験）

第7条 試験の結果必要と認められる科目については、再試験を行うことがある。

（追認試験）

第8条 試験によって再評価しうる科目については、不可の科目の追認試験を行うことがある。

（試験中の不正行為）

第9条 試験中不正行為を行った者に対しては、その時間以降の受験を停止するとともに、当該試験期間中の全科目の試験を0点とする。

（修得科目）

第10条 次の各号の一に該当する科目は、修得科目と認める。

（1）学業成績が、可以上の科目

（2）第2条第3項の規定により、合格と評価された校外実習

（3）第2条第5項で合格と認定された科目

（4）第4条で可以上と認定された科目

（5）高専以外の学修等規則第4条第2項の規定により、単位の認定を受けた科目

（課程修了の認定）

第11条 学年の課程修了の認定は、認定会議に付し校長が認定する。

2 次の各号の一に該当するものは、原則として課程の修了を認めない。

（1）評価しない科目のある者

(2) 次の表の学年に対応する単位を修得できなかった者

学 年	単 位 数
1 学年	27以上 (うち一般科目20以上)
2 学年	61以上 (うち一般科目46以上, 専門科目 5 以上)
3 学年	95以上 (うち一般科目61以上, 専門科目24以上)
4 学年	130以上 (うち一般科目70以上, 専門科目50以上)
5 学年	167以上 (うち一般科目75以上, 専門科目82以上)

(3) 欠課時数(学校行事・特別活動の欠課時数を含む。)を1日7時間の割で換算した日数が, 出席すべき日数の5分の1を超える者

ただし, 病気その他の理由により, やむを得ないと認定会議で認められた場合にあつては, 3分の1を超える者(長期にわたる病気による欠席日数が, 3分の1を超える場合であっても, 特別な状況にあると認定会議で認められた者を除く。)

(4) 特別活動の履修状況及び学校行事への参加状況が著しく不良の者

(留年, 退学)

第12条 課程修了を認められないものは, 原学年にとどめる。

2 休学による場合を除き, 引き続き2回又は通算3回原学年にとどまる者は, 学則第45条の規定により退学しなければならない。

(学生の欠次)

第13条 学生の学級毎の欠次は, 第2条第2項の100点法による評価点の合計で示し, 卒業研究の評価点は加えない。

2 第4条で学業成績の評価が決定した場合は, 他の学生の席次は変更せず, 当該学生はその学業成績に相当する席次で示す。

3 学生の保護者に送付する学業成績の表示は, 評価点を用い席次は表示しない。

(指導要録等への記載方法)

第14条 卒業又は退学した学生に不可の科目があるときは, 指導要録は「履修」と記載する。成績証明書もこれにならう。

(雑則)

第15条 この内規に関し, 必要な事項は, 別に定める。

(出典 学業成績の評価及び課程修了の認定に関する内規)

資料5-3-①-2 編入学生に対する入学前説明会

平成19年度編入学生事前指導日程表

実施日 : 平成18年 9月25日 (月)

日 程

	時間	場所	担当者
入 寮 説 明	13時30分 ~ 14時00分	小会議室	寮務主事
教務主事挨拶 学校概要説明	14時00分 ~ 14時20分	小会議室	教務主事
数 学	14時20分 ~ 14時45分	小会議室	■■先生
英 語	14時45分 ~ 15時10分	小会議室	■■先生
理 科	15時10分 ~ 15時35分	小会議室	■■先生
各 該 当 学 科	15時45分 ~ 16時30分	各 科	各学科長

(出典 平成19年度編入学生事前指導日程表)

資料5-3-①-3 追認試験結果

	2年生			3年生		
	追認試験数	合格者数	合格率	追認試験数	合格者数	合格率
H17年度	42	33	78.6%	47	40	85.1%
H18年度	39	31	79.5%	46	33	71.7%
	4年生			5年生		
	追認試験数	合格者数	合格率	追認試験数	合格者数	合格率
H17年度	62	50	80.6%	106	81	76.4%
H18年度	57	36	63.2%	63	30	47.6%

(出典 平成17及び18年度追認試験結果より抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

成績評価や進級・卒業認定に関する規則を制定し、学生便覧に記載することで学生に周知している。また、追認試験の規定も定めており、厳正かつ慎重に運用している。

また、全教員が出席する進級・卒業認定会議において、成績評価・単位認定や進級・卒業認定を適切に行っている。

観点5-4-①： 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

本校の特別活動は、ロングホームルーム（以下LRHと略す）と球技大会や高専祭などの学生会企画の行事に大別できる。第1学年から第3学年の全クラスにおいて、週1時間実施しているLHRは、担

任裁量で行われるものと、教務部や学生部等の主催で実施される場合があり、いずれの場合においても必修の科目として全員が修得しなければならないように定めている（別添資料5-1-②-1, pp.23-26）。LHRの目標、学年ごとの目標は教務便覧に記載し、担任を中心として各クラスで年間計画を決めている（資料5-4-①-1）。

一方、学生会企画の活動は人間の素養の涵養において、特にその効果が期待できる活動と位置付けており、学生会と教職員が一体となって作る重要な活動行事である（資料5-4-①-2）。これらの行事は、企画・準備から実施に至るまで、学生の自主的活動が主体となっており、その活動の中で得られる人間関係、社会との対応、自己研鑽など、人間的資質を涵養するにふさわしい体験ができる状況になっている。

また、特別行事として、第2学年では1泊2日の校外研修旅行、第3学年では主に関西方面への工場見学旅行を実施している（資料5-4-①-3～4）。本校ではこれらの活動を通して、教育目標でもある倫理力やコミュニケーション力を育成している。

資料5-4-①-1 第1学年LHR年間計画表の例

月日	内容	担当
4月12日	校内探検	クラス
4月18日	開校記念日	
4月19日	演劇鑑賞会の時代背景解説、感想文	クラス
4月26日	健康の日	
5月10日	教務・学生主事の話	教務部
5月17日	室内ゲーム	クラス
5月24日	悪徳商法について	学生部
5月31日	勉強の仕方(数学・物理)	教務部
6/7~6/13 前期中間試験		
6月14日	ドッジボール	クラス
6月21日	球技大会選手決め	クラス
6月26日	球技大会	
6月28日	学校周辺の清掃	学年
6/30~7/1 保護者懇談会		
7月12日	性教育(避妊について)	学生部
7/14~8/31 夏休み		
9月6日	遠足の行き先決め	クラス
9月13日	クレープを作ろう	クラス
9月20日	期末試験に備えて	クラス
9/21~9/28 前期末試験		
10月4日	後期クラス役員決め	クラス
10月11日	未来への手紙(一筆啓上賞に応募)	クラス
10/17~10/19 特別行事、教員顕彰アンケート		
10月25日	高専祭準備	クラス
11/3~11/5 文化祭、片づけ		
11月8日	バスケットボール	クラス
11月15日	米子市海外研修員の話	教務部
11月22日	ホットケーキを作ろう	クラス
11月29日	リラクゼーション講習会	学生相談室
12/3~12/7 後期中間試験		
12月13日	飲酒・喫煙の害	学生部
12月19日	スポ・レク大会	
12月20日	教務部の話(成績)	教務部
12/22~1/6 冬休み		
1月10日	カードゲーム	クラス
1月17日	友達の良いところ探し	クラス
1月24日	お好み焼きを作ろう	クラス
1月31日	自転車置き場清掃	クラス
2月7日	1年間の反省	クラス
2/12~2/18 学年末試験		
2月19日	終業式	

(出典 平成19年度第1学年LHR年間計画表)

資料5-4-①-2 平成19年度年間行事予定表

平成19年度 行事予定

4月			5月			6月			7月			8月			9月			
日	曜日	本 科 専攻科	日	曜日	本 科 専攻科	日	曜日	本 科 専攻科	日	曜日	本 科 専攻科	日	曜日	本 科 専攻科	日	曜日	本 科 専攻科	
1	日	開校	1	火	臨時休業	1	金	土	1	日	臨時休業	1	水	木	1	土	日	
2	月	開校休業	2	水	臨時休業	2	土	日	2	月	臨時休業	2	木	金	2	日	臨時休業	
3	火	始業式・ガイダンス	3	木	憲法記念日	3	日	臨時休業	3	火	臨時休業	3	土	日	臨時休業	3	月	臨時休業
4	水	入学式・ガイダンス	4	金	みどりの日	4	月	臨時休業	4	木	臨時休業	4	日	臨時休業	4	火	臨時休業	
5	木	入学式	5	土	子供の日	5	火	臨時休業	5	金	臨時休業	5	月	臨時休業	5	水	臨時休業	
6	金	入学式	6	日	臨時休業	6	水	臨時休業	6	土	臨時休業	6	日	臨時休業	6	木	臨時休業	
7	土	入学式	7	月	臨時休業	7	木	臨時休業	7	日	臨時休業	7	月	臨時休業	7	火	臨時休業	
8	日	入学式	8	火	臨時休業	8	金	臨時休業	8	月	臨時休業	8	水	臨時休業	8	木	臨時休業	
9	月	入学式	9	水	臨時休業	9	土	臨時休業	9	火	臨時休業	9	木	臨時休業	9	金	臨時休業	
10	火	入学式	10	木	臨時休業	10	日	臨時休業	10	水	臨時休業	10	土	臨時休業	10	日	臨時休業	
11	水	入学式	11	金	臨時休業	11	月	臨時休業	11	火	臨時休業	11	木	臨時休業	11	火	臨時休業	
12	木	入学式	12	土	臨時休業	12	火	臨時休業	12	金	臨時休業	12	日	臨時休業	12	水	臨時休業	
13	金	入学式	13	日	臨時休業	13	水	臨時休業	13	土	臨時休業	13	月	臨時休業	13	木	臨時休業	
14	土	入学式	14	月	臨時休業	14	木	臨時休業	14	日	臨時休業	14	火	臨時休業	14	金	臨時休業	
15	日	入学式	15	火	臨時休業	15	金	臨時休業	15	月	臨時休業	15	水	臨時休業	15	土	臨時休業	
16	月	入学式	16	水	臨時休業	16	土	臨時休業	16	火	臨時休業	16	木	臨時休業	16	日	臨時休業	
17	火	入学式	17	木	臨時休業	17	日	臨時休業	17	水	臨時休業	17	土	臨時休業	17	火	臨時休業	
18	水	入学式	18	金	臨時休業	18	月	臨時休業	18	火	臨時休業	18	木	臨時休業	18	金	臨時休業	
19	木	入学式	19	土	臨時休業	19	火	臨時休業	19	日	臨時休業	19	月	臨時休業	19	水	臨時休業	
20	金	入学式	20	日	臨時休業	20	水	臨時休業	20	土	臨時休業	20	火	臨時休業	20	木	臨時休業	
21	土	入学式	21	月	臨時休業	21	木	臨時休業	21	日	臨時休業	21	火	臨時休業	21	金	臨時休業	
22	日	入学式	22	火	臨時休業	22	金	臨時休業	22	月	臨時休業	22	水	臨時休業	22	土	臨時休業	
23	月	入学式	23	水	臨時休業	23	土	臨時休業	23	火	臨時休業	23	木	臨時休業	23	日	臨時休業	
24	火	入学式	24	木	臨時休業	24	日	臨時休業	24	月	臨時休業	24	火	臨時休業	24	水	臨時休業	
25	水	入学式	25	金	臨時休業	25	月	臨時休業	25	火	臨時休業	25	木	臨時休業	25	金	臨時休業	
26	木	入学式	26	土	臨時休業	26	火	臨時休業	26	日	臨時休業	26	月	臨時休業	26	水	臨時休業	
27	金	入学式	27	日	臨時休業	27	水	臨時休業	27	土	臨時休業	27	火	臨時休業	27	木	臨時休業	
28	土	入学式	28	月	臨時休業	28	木	臨時休業	28	日	臨時休業	28	月	臨時休業	28	火	臨時休業	
29	日	入学式	29	火	臨時休業	29	金	臨時休業	29	月	臨時休業	29	水	臨時休業	29	木	臨時休業	
30	月	入学式	30	水	臨時休業	30	土	臨時休業	30	火	臨時休業	30	木	臨時休業	30	金	臨時休業	
31	火	入学式	31	木	臨時休業	31	日	臨時休業	31	月	臨時休業	31	火	臨時休業	31	水	臨時休業	

平成19年度 行事予定

10月			11月			12月			1月			2月			3月		
日	曜日	本 科 専攻科	日	曜日	本 科 専攻科	日	曜日	本 科 専攻科	日	曜日	本 科 専攻科	日	曜日	本 科 専攻科	日	曜日	本 科 専攻科
1	日	入学式	1	木	入学式	1	土	入学式	1	火	入学式	1	金	土	1	土	日
2	月	入学式	2	金	文化祭準備	2	日	入学式	2	水	入学式	2	土	日	2	日	臨時休業
3	火	入学式	3	土	文化の日	3	月	入学式	3	木	入学式	3	火	臨時休業	3	月	臨時休業
4	水	入学式	4	日	文化祭	4	火	入学式	4	金	入学式	4	日	臨時休業	4	火	臨時休業
5	木	入学式	5	月	文化祭	5	水	入学式	5	土	入学式	5	月	臨時休業	5	水	臨時休業
6	金	入学式	6	火	文化祭	6	木	入学式	6	日	入学式	6	火	臨時休業	6	木	臨時休業
7	土	入学式	7	水	文化祭	7	金	入学式	7	月	入学式	7	土	臨時休業	7	金	臨時休業
8	日	入学式	8	木	文化祭	8	土	入学式	8	火	入学式	8	日	臨時休業	8	土	臨時休業
9	月	入学式	9	金	文化祭	9	日	入学式	9	水	入学式	9	月	臨時休業	9	日	臨時休業
10	火	入学式	10	土	文化祭	10	月	入学式	10	木	入学式	10	火	臨時休業	10	火	臨時休業
11	水	入学式	11	日	文化祭	11	火	入学式	11	金	入学式	11	日	臨時休業	11	水	臨時休業
12	木	入学式	12	月	文化祭	12	水	入学式	12	土	入学式	12	月	臨時休業	12	木	臨時休業
13	金	入学式	13	火	文化祭	13	木	入学式	13	日	入学式	13	火	臨時休業	13	金	臨時休業
14	土	入学式	14	水	文化祭	14	金	入学式	14	月	入学式	14	土	臨時休業	14	土	臨時休業
15	日	入学式	15	木	文化祭	15	土	入学式	15	火	入学式	15	日	臨時休業	15	日	臨時休業
16	月	入学式	16	金	文化祭	16	日	入学式	16	水	入学式	16	月	臨時休業	16	月	臨時休業
17	火	入学式	17	土	文化祭	17	月	入学式	17	木	入学式	17	火	臨時休業	17	火	臨時休業
18	水	入学式	18	日	文化祭	18	火	入学式	18	金	入学式	18	日	臨時休業	18	水	臨時休業
19	木	入学式	19	月	文化祭	19	水	入学式	19	土	入学式	19	月	臨時休業	19	木	臨時休業
20	金	入学式	20	火	文化祭	20	木	入学式	20	日	入学式	20	火	臨時休業	20	金	臨時休業
21	土	入学式	21	水	文化祭	21	金	入学式	21	月	入学式	21	土	臨時休業	21	土	臨時休業
22	日	入学式	22	木	文化祭	22	土	入学式	22	火	入学式	22	日	臨時休業	22	日	臨時休業
23	月	入学式	23	金	文化祭	23	日	入学式	23	水	入学式	23	月	臨時休業	23	月	臨時休業
24	火	入学式	24	土	文化祭	24	月	入学式	24	木	入学式	24	火	臨時休業	24	火	臨時休業
25	水	入学式	25	日	文化祭	25	火	入学式	25	金	入学式	25	日	臨時休業	25	水	臨時休業
26	木	入学式	26	月	文化祭	26	水	入学式	26	土	入学式	26	月	臨時休業	26	木	臨時休業
27	金	入学式	27	火	文化祭	27	木	入学式	27	日	入学式	27	火	臨時休業	27	金	臨時休業
28	土	入学式	28	水	文化祭	28	金	入学式	28	月	入学式	28	土	臨時休業	28	土	臨時休業
29	日	入学式	29	木	文化祭	29	土	入学式	29	火	入学式	29	日	臨時休業	29	日	臨時休業
30	月	入学式	30	金	文化祭	30	日	入学式	30	水	入学式	30	月	臨時休業	30	月	臨時休業
31	火	入学式	31	土	文化祭	31	月	入学式	31	木	入学式	31	火	臨時休業	31	火	臨時休業

(出典 平成19年度年間行事予定表)

資料 5-4-①-3 平成 18 年度校外研修日程表

研修旅行活動計画

	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科
19日(木)					
9:00	(米子高専発)				
11:30	(青年の家着) オリエンテーション				
12:00	昼食 宿泊準備				
13:30	サイクリング 【雨天:キンボール】	テニス 【雨天:七宝焼】	サッカー 【雨天:バドミントン・卓球】	バドミントン 【雨天:バドミントン・卓球】	グラウンドゴルフ 【雨天:三瓶自然館】
16:30	(連絡会議)				
17:00	夕べのつどい				
17:30	夕食				
18:30	バドミントン		男子:入浴		女子:入浴
19:15			女子:入浴	男子:入浴	男子:入浴
20:00	入浴	女子:入浴		女子:入浴	
20:45		男子:入浴			
21:30					
22:00	点呼・就寝				
20日(金)					
6:30	起床・洗面				
7:00	朝のつどい				
7:45	朝食				
8:30	片付け・点検				
9:00	登山 (青年の家のバス利用で東の原-リフト利用で大平山-徒歩で女三瓶山・帰りはリフトを利用せず東の原-バス利用で青年の家着) 【雨天:三瓶自然館(プラネタリウム)】	グラウンドゴルフ 【雨天:バスケットボール・卓球】	ソフトボール 【雨天:バスケットボール・卓球】	テニス 【雨天:映画】	バスケットボール・卓球 【雨天:バスケットボール・卓球】
10:30	(青年の家発) いりすの丘 (昼食)	(青年の家発) 出雲大社 (昼食)	(青年の家発) いりすの丘 (昼食)	(青年の家発) いりすの丘 (昼食)	タッチオープン料理 (昼食)
12:00	青年の家(昼食)				(青年の家発)
13:30	青年の家(発)				
14:00	(いりすの丘発)	(出雲大社発)	(いりすの丘発)	(いりすの丘発)	(米子高専到着)
16:00	(米子高専到着)	(米子高専到着)	(米子高専到着)	(米子高専到着)	(米子高専到着)

(出典 平成 18 年度校外研修旅行日程表)

資料 5-4-①-4 平成 18 年度工場見学旅行日程表

	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科	
日程	10月18日 (水)	8:20 出発 JFEスチール 西日本製鉄所 (岡山県倉敷市)	8:30 出発 関西電力㈱ 南港発電所 (大阪府大阪市)	8:30 出発 大阪ガス 泉北製造所 (大阪府大阪市)	8:30 出発 東レ㈱ 滋賀事業所 (滋賀県大津市)	8:15 出発 積水ハウス㈱ なっとく工房 (京都府相楽郡)
	10月19日 (木)	三菱重工業 高砂工場 (兵庫県高砂市)	シャープ天理工場 歴史ホール & 技術ホール (奈良県天理市)	サントリービール 京都工場 (京都府長岡京市)	サントリービール 京都工場 (京都府長岡京市)	鹿島建設施工現場 「京阪神不動産 御堂筋ビル」
	10月20日 (金)	新明和工業 甲南工場 (兵庫県神戸市)	神戸市内 ハーバーランド	神戸市内自由散策	花王 和歌山工場 (和歌山県和歌山市)	人と防災未来センター (兵庫県神戸市) ※自由夕食
	三菱重工業 神戸造船所 (兵庫県神戸市)	古野電気㈱ 三木工場 (兵庫県三木市)	富士電機システムズ (兵庫県神戸市)	神戸市内 ハーバーランド周辺散策	本福寺 淡路夢舞台	
	神戸市内 ハーバーランド周辺散策	榊松下エコテクノロジー センター (兵庫県加東市)		※自由昼食	淡路ハイウェイ オアシス	
	19:00 到着	18:15 到着	17:40 到着	17:30 到着	17:00 到着	

(出典 平成 18 年度工場見学旅行日程表)

(分析結果とその根拠理由)

特別活動は人間性の素養を涵養できるように年間行事に計画し、教職員の全面的援助を得ながら実施している。

観点5-4-②： 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

本校の指導体制と指導方針については学生委員会(資料2-2-①-8, 27ページに前出)によって立てられており、全教員には「学生生活指導の手引」(別添資料2-2-③-2)を配布し、指導方針の統一を図っている。また、学生には「学生としての心得」を配布し、自律的な行動を促している(資料5-4-②-1)。さらに、周辺の高校、中学の生徒指導担当者との連携も行いつつ生活指導を行っている(資料5-4-②-2)。夏季休暇前には、休業中の心得としての特別な注意を促している(資料5-4-②-3)。特に新入生に対しては入学時にオリエンテーションを行い、本校の学生として学生生活に溶け込みやすいよう配慮している(資料1-2-①-8, 12ページに前出)。

保健衛生や交通安全に関しては、外部講師を招いて講習会を開催し、学年に応じた教育を行うよう心掛けている(資料5-4-②-4)。

課外活動としてのクラブ・同好会活動は、学生会の組織の中で活動している(資料5-4-②-5)。それぞれのクラブ・同好会には本校の指導教員を配置しており、学生の課外活動のみならず生活上の相談にも応じている。また、クラブ・同好会活動は年度初めに提出する計画に従って行われている(資料5-4-②-6)。

資料5-4-②-1 学生心得

VI 学生としての心得

大学と同じ高等教育機関である高専では、入学した諸君の自主性を尊重し、皆さんを生徒ではなく「学生」と呼びます。高専では小中学校のような細かい規制はありませんが、これは自由勝手な言動が許されるということではありません。自主性が重んじられるということは、「学生」自身の責任が重くなるということになります。

有意義な学生生活を送るためには、勉強はもちろんクラブ活動等に励むとともに、規律ある生活を心がけることが必要です。

1. 学則・学生準則の遵守

学則及び学生準則は、本校の学生として守るべき基本事項を示したものです。よく読んで理解してください。これらの規則を守らないことにより不利益な結果を招くことのないよう十分注意してください。

2. 学生証と学籍番号

学生証は、本校の学生であることを証明する大切な身分証明書です。常に携帯し提示を求められた場合に、いつでも見せることができるようにしておいてください。

住所等の記載事項に変更があった場合、破損や紛失した場合は、速やかに学生課教務係に届けてください。

学生証は毎年、新学期の始めに学生課教務係で検認を受け、有効期限の更新をしなければなりません。

また、第4学年には新たに学生証を交付します。

学籍番号は、在学中はもちろん卒業後も変わることはありません。上2桁は入学時の西暦を表し、次は学科を表し末尾の2桁が各自の番号になっています。諸手続を行う上で学籍番号は必要になりますので良く覚えておいてください。

3. 制 服

男子 黒の標準学生服 ボタンは、本校所定のもの

襟の左側に学科章、右側に校章、左胸部に名札をつけること。

女子 本校指定のスリーピース、ブラウスは襟付きの白であれば、特に指定しな

い。(冬はベストの代わりにセーターを着用してもよい。)

スカートのヒダ数は24本

襟の左側に学科章、右側に校章、左胸部に名札をつけること。

夏の服装 6月1日から9月30日(上着は着用しなくてもよい。)

男子 白の開襟シャツ又はワイシャツ

女子 白のブラウス

頭髮は清潔、清楚にし、本校の学生としてふさわしいように心がけましょう。

なお、体育及び実験実習時の服装について教科毎に決められている場合はその決まりによります。

(出典 平成19年度学生便覧より抜粋)

資料5-4-②-2 鳥取県指導部連盟会議資料

平成18年度鳥取県高等学校西部地区指導部連盟

第2回理事会

平成18年7月6日(木) 14:30～

県立武道館 研修室(2)

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 概況説明
 - ・米子警察署生活安全課より
 - ・鳥取県教育委員会より
 - ・その他
4. 協議事項
 - ・夏季休業中の生徒指導について
 - ① 夏季巡視計画
 - ② 確認事項に関すること
 - ・アルバイトに関する要望書の送付について
 - ・自動車学校への申し入れについて
 - ・学校祭について
 - ① 各校の日程確認
 - ② 確認事項に関すること
 - ・その他
5. 情報交換
6. その他
7. 閉会

(出典 平成18年度鳥取県高等学校西部地区指導部連盟 会議資料)

資料5-4-②-3 夏季休業中の心得

夏季休業中の心得

学生主事

長期休業の意義をよく理解し、自主的に学力補充、健康増進、読書等の計画を立て、また豊かな教養・趣味を身につけるなど十分に休暇を活用し、有意義な生活を送るよう心がける。

1. 学則・学生準則の遵守

米子高専の学生としての誇りを持ち、社会的に認められてない次のような行為は慎む。

- ・ 未成年者の飲酒・喫煙
- ・ 道路交通法に違反する行為
- ・ 校内、校外を問わず駐車違反
- ・ 万引き、自転車の無断使用などの窃盗罪に問われる行為
- ・ 深夜の外出
- ・ その他の反社会的な行為

2. アルバイトについて

アルバイトは許可制であることを念頭におき、保護者の許しを得た上で、学級担任とよく相談する。担任の許しがあれば許可願の用紙をもらい、各事項を記入し、学生係に提出すること（雇用者の保証書がないものは許可しない）。許可する場合には「許可証」を交付する。これを雇用者に提示し、アルバイトをはじめめる。

以下に該当する内容の場合は許可しない。

- ・ 夜間遅くなるもの
- ・ 危険を伴うもの
- ・ 酒を供する飲食店業
- ・ 風俗関係
- ・ 宿泊を伴う内容のもの（低学年の場合）
- ・ その他学生として相応しくない内容のもの

3. 交通事故・違反について

交通法規を守り、安全運転を心がけ、交通事故には特に注意する。万一、事故・違反にあったときは速やかに学級担任又は学生係に連絡する。

長距離ドライブ等、長時間の運転をする場合は、道路状況や交通量を考え十分にゆとりをもつ

た計画を立て、無理な運転や過労にならないようにする。また、出発前の車の整備、点検を確実にしておく。

4. 校内への立ち入り禁止と学生課等の窓口閉鎖について

8月12日(土)～16日(水)の期間、正門をはじめすべての出入り口が閉まり、敷地内への立ち入りが全面的に禁止となる。校舎も施錠され立ち入りが出来なくなるので、注意すること。また、教職員も不在のため電話の対応もできない。

5. その他

- (1) 外出時は清楚な服装に心掛け良識ある言動で対処する。特に訪問、外泊、交際等については家族にも相談しながら相手の都合を考えて行動する。
- (2) 事故等があった場合は、担任または学生係（0859—24—5023）に連絡する。
- (3) クラブ活動等以外で他の高等学校に無断で立ち入ることのないようにする。

(出典 夏季休業中の心得)

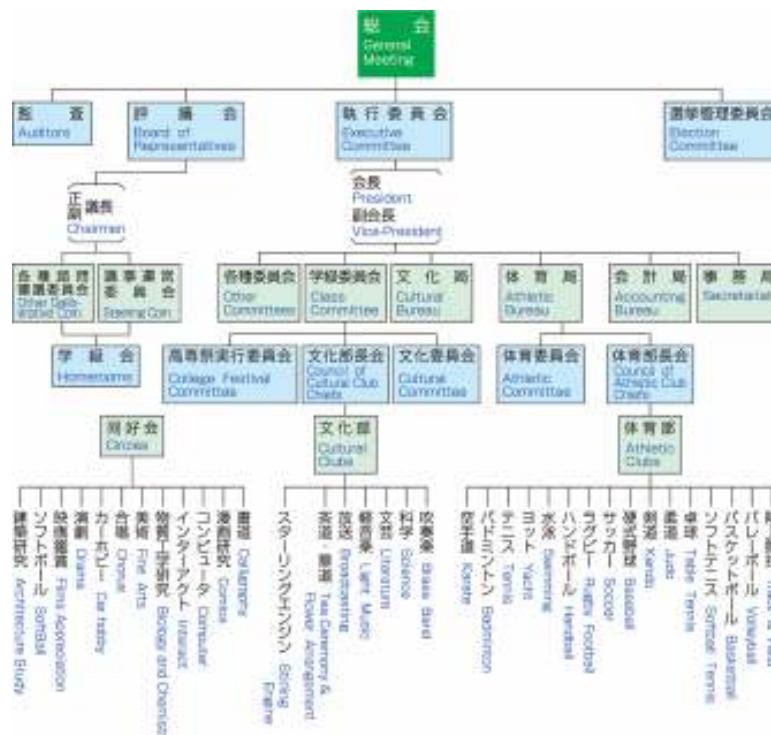
資料 5 - 4 - ② - 4 交通安全講習会

交通安全講習会及び二輪実技講習会

年 月 日	対象学生	講 演 内 容	講 師 等
平成15年6月24日	車両通学許可者	「いのちはひとつ」	自動車学校技能検定員 安田正氏
平成15年6月28日	二輪通学許可者	二輪実技講習	自動車学校教官(教習所で実施)
平成15年11月19日	車両通学許可者	「えっ?うそお~意外と知らない交通事情」	自動車学校技能検定員 安田正氏
平成15年11月22日	二輪通学許可者	二輪実技講習	自動車学校教官(教習所で実施)
平成16年4月21日	4年生	「交通安全について」	米子警察署
	5年生	「交通安全について」	米子警察署
平成16年12月11日	二輪通学許可者	二輪実技講習	自動車学校教官(教習所で実施)
平成17年4月27日	4年生	「交通安全について」	米子警察署
平成17年10月29日	二輪通学許可者	二輪実技講習	自動車学校教官(教習所で実施)
平成17年11月21日	3年生	「交通安全について」	米子警察署
平成18年11月11日	二輪通学許可者	二輪実技講習	自動車学校教官(教習所で実施)
平成19年2月15日	3年生	「交通安全について」	米子警察署

(出典 交通安全講習会及び二輪実技講習会)

資料 5 - 4 - ② - 5 学生会組織図



(出典 平成19年度学校要覧 p.34)

資料5-4-②-6 クラブ・同好会活動時間の年間計画

クラブ・同好会活動時間の年間計画

平成19年度

(吹奏楽) 部、同好会

記載責任者 (山田 祐司)

※ 長期休業中を除いた通常時の予定を記入して下さい。

1. 平日

(16) 時(30)分 ~ (18) 時(30)分

2. 休日

(1)土曜日 i. する a. ほぼ毎週する b. ときどきする
(9) 時(00)分 ~ (13) 時(00)分ii. しない(2)日曜日 i. する a. ほぼ毎週する b. ときどきする
(9) 時(00)分 ~ (16) 時(00)分ii. しない(3)祭 日 i. する a. ほぼ毎回する b. ときどきする
() 時() 分 ~ () 時() 分ii. しない

3. その他

※ シーズンオフ、冬季期間等、通常時と大きく異なる期間がある場合や、上記に記入できない場合は下に記入して下さい。

(出典 クラブ・同好会活動時間の年間計画届)

(分析結果とその根拠理由)

生活指導面における指導方針は統一されており、全教員は学生が人間としての基本的素養を身に付けることを目的として、日々の指導を行っている。また、外部講師による交通安全などの講演会も実施し、人間性の素養の涵養に努めている。

クラブ活動については学生会が中心となり、指導教員が課外活動に関わることで、学生の人間教育に全校体制で取り組んでいる。

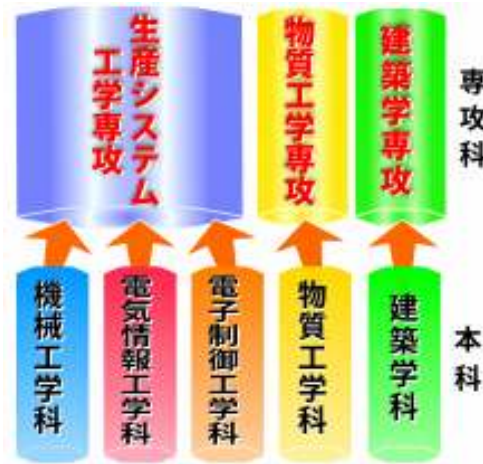
<専攻科課程>

観点5-5-①： 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

(観点到に係る状況)

本校の準学士課程5学科と専攻科3専攻の関係は資料5-5-①-1に示すとおりであり、準学士課程との連携を考慮している。準学士課程及び専攻科の科目間の関連は資料5-5-①-2~6のとおりであり、専攻科は準学士課程の教育との連携を十分考慮した教育課程となっている。

資料5-5-①-1 本科・専攻科関連図



(出典 専攻科パンフレット)

資料5-5-①-2 機械工学科—生産システム工学専攻科目系統図

学習教育目標	科目	授業科目名									
		本科		専攻科1年		専攻科2年		前期		後期	
		1年	2年	3年	4年	5年	前期	後期	前期	後期	
基礎力	一般基礎知識			応用物理Ⅰ	応用物理Ⅱ		健康科学特論(選択)		現代物理(選択)		
	材料と構造に関する力学			材料力学Ⅰ	材料力学Ⅱ				材料デザイン(選択)		
	エネルギーと流れに関する力学			流体工学Ⅰ	流体工学Ⅱ						
	機械システムの設計・生産加工に関する知識			工業力学	機械振動学	機械工学					
専門基礎知識	機械システムの設計・生産加工に関する知識		機械工作法Ⅰ	機械工作法Ⅱ	機械工作法Ⅲ	生産システム工学					
	情報と制御に関する知識		情報処理	基礎電気電子工学	マイクロロニクス	アクアエニクス工学	社会工学				
	ものづくりの基礎となる知識・技術		基礎製図Ⅰ	基礎製図Ⅱ	設計製図Ⅰ						
			基礎工学実験実習Ⅰ	基礎工学実験実習Ⅱ	設計製図Ⅱ	機械工学実験実習Ⅰ					
応用力				設計製図Ⅱ	設計製図Ⅲ	応用物理学特論	応用物理学特論(選択)	応用物理学特論(選択)	トランスパシーナブル特論(選択)	電子最先端工学(選択)	
				機械工学実験実習Ⅱ	機械工学実験実習Ⅲ	システム制御特論(選択)	固体物理学特論(選択)	固体物理学特論(選択)	固体物理学特論(選択)	光情報デバイス(選択)	
					材料工学Ⅰ(選択)	材料工学Ⅱ(選択)	情報技術特論(選択)	情報技術特論(選択)	情報技術特論(選択)	材料工学実用開発(選択)	
					応用情報工学(選択)	応用情報工学(選択)	応用情報工学(選択)	応用情報工学(選択)	応用情報工学(選択)	応用情報工学(選択)	
発展力						生産システム工学特別実験	生産システム工学特別実験	生産システム工学特別実験	生産システム工学特別実験	生産システム工学特別実験	
コミュニケーション力	ものづくりワークショップ										
倫理力											
各学年における達成目標											

(出典 専攻科資料)

資料5-5-①-3 電気情報工学科—生産システム工学専攻科目系統図

学習教育目標	細目	授業科目									
		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科1年		専攻科2年		
基礎力	一般基礎知識	電気数学		応用物理Ⅰ	応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ 応用物理Ⅱ		健康科学特論(選択) 現代化学(選択)	現代物理(選択) 材料デザイン工学(選択)			
	電気情報工学の基礎知識	電気制御	電気回路Ⅰ 電気回路Ⅱ 電気計測Ⅰ	電気回路Ⅲ 電気回路Ⅳ 電気計測Ⅱ	電気回路Ⅴ 電気回路Ⅵ 電気計測Ⅲ						
専門基礎知識	電子デバイス分野に関する知識			電子デバイスⅠ デジタル回路	電子デバイスⅡ 電子回路Ⅶ 電気材料						
	電力エネルギー分野に関する知識			電気機器Ⅰ	電気機器Ⅱ 電力工学 制御工学						
応用力	通信・情報分野に関する知識	情報処理	プログラミングⅠ	プログラミングⅡ	コンピュータ工学	情報ネットワーク 信号処理					
		電気基礎実験Ⅰ	電気基礎実験Ⅱ	電気基礎実験Ⅲ	電気応用実験Ⅰ 電気工学(選択) 電気計測(選択) 情報通信技術(選択)	電気応用実験Ⅱ 通信工学(選択) ソフトウェア工学(選択) 数値計算工学(選択) 電気機器設計(選択) 電子回路設計(選択)	応用数学特論 流体力学特論(選択) システム制御特論(選択) 生産・精密加工(選択) 固体物理学(選択) 情報処理特論(選択) 制御システム工学(選択) 電気計測工学(選択) 応用電気工学(選択)	電気材料工学(選択) 熱・物質移動論(選択) 生産・精密加工(選択) 応用物理特論(選択) 制御システム工学(選択) デジタル制御論(選択) システム工学(選択) 電気材料工学(選択) 電気計測工学(選択)	トライボロジー・物産特論(選択) 品質管理特論(選択) 材料強度・材料形成論(選択) 応用ソフトウェア工学(選択) 情報通信工学(選択) 電気計測工学(選択) システム工学(選択) 電気材料工学(選択) 電気計測工学(選択)	電気電子工学(選択) 応用ソフトウェア工学(選択) 情報通信工学(選択) 電気計測工学(選択)	
発展力				校外実習(選択)		生産システム工学特別実験 製造・生産技術特別実験	知的財産権特論(選択) 生産システム工学特別研究				
コミュニケーション力				電気情報英語	卒業研究	インターンシップ(選択) 日本語表現法(選択)	コミュニケーション特論(選択) 上級英語演習 専攻科英語特論 技術表現法 人文社会特論(選択)			技術表現法	
倫理力				環境科学 技術者倫理		環境科学特論 技術者倫理	技術者倫理				
各学年における達成目標		1. 電気工学の実験実習に使用する機器の基本操作に習熟する。 2. 工学的な思考法、表現法を習得する。 3. ものづくりに必要な各種工作の基礎を習得する。	1. 電子計算機の原理及びプログラミングの基礎を習得する。 2. 電気に関する諸現象を理解する。 3. 電気に関する諸現象を解析するための数学的手法を理解する。	1. 電子計算機を科学技術計算に活用できる能力を身につける。 2. 電気と磁気に関する諸現象及び、それらに応じた機器、電子部品の動作原理を理解する。 3. グループ単位で自主的に課題に取り組める能力を身につける。 4. 専門科目に興味を持ち、その結果を最終的に分析、評価できる能力を身につける。	1. 専門科目の内容を数学的手法を用いて説明できる能力を身につける。 2. エレクトロニクスからエネルギーまで幅広い専門分野の基礎を身につける。 3. 安全に実験を実施し、その結果を最終的に分析、評価できる能力を身につける。 4. グループ単位での課題に取り組める能力を身につける。 5. 卒業研究を計画的に実施し、その結果を最終的に発表できる能力を身につける。	1. 専門知識を駆使して問題解決をデザインし、それを実践できる能力を身につける。 2. 他の専門分野の知識を問題解決に応用できる能力を身につける。 3. 実験、研究の成果を日本語で論理的に記述でき、わかりやすく発表できる能力を身につける。 4. 科学技術が社会に与える影響、技術者としての責任を理解する能力を身につける。	1. 前工程を凝らして柔軟に問題を解決する能力を身につける。 2. 科学技術に関する英文を理解し、必要な情報を収集できる能力を身につける。 3. 技術者の倫理を理解し、環境に配慮したデザイン能力を身につける。 4. 電気工学、情報処理の知識を応用して、工学現象の解析に応用する能力を身につける。				

(出典 専攻科資料)

資料5-5-①-4 電子制御工学科—生産システム工学専攻科目系統図

学習教育目標	細目	授業科目									
		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科1年		専攻科2年		
基礎力	一般基礎知識			応用物理Ⅰ	応用物理Ⅱ 応用数学Ⅰ 応用数学Ⅱ	工業数学	健康科学特論(選択) 現代化学(選択)	現代物理(選択) 材料デザイン工学(選択)			
	電気・電子及び計測・制御に関する知識	電子制御基礎	電気回路Ⅰ デジタル回路Ⅰ	電気回路Ⅱ 電気回路Ⅲ 電気電子回路実習 デジタル回路Ⅱ 電子計測	電気回路Ⅳ 電気回路Ⅴ 電子回路Ⅰ 電子デバイス	電気電子材料 電子回路Ⅵ 自動制御					
専門基礎知識	情報・コンピュータに関する知識	情報処理Ⅰ	情報処理Ⅱ	計算機概論	計算機工学Ⅰ	計算機工学Ⅱ 情報処理					
	機械システムとその制御に関する知識	基礎製図	設計製図	材料力学Ⅰ	材料力学Ⅱ	ロボット制御工学 システム工学(選択) 数値工学特論(選択)					
応用力	ものづくりの基礎となる知識・技術	基礎製図 工学実験実習Ⅰ	設計製図 工学実験実習Ⅱ	工学実験実習Ⅲ			応用数学特論 応用電気工学(選択) 応用物理特論(選択) 応用化学(選択) 応用生物(選択) 応用情報工学(選択) 応用電気工学(選択) 応用化学(選択) 応用生物(選択)	応用数学特論(選択) 応用物理特論(選択) 応用化学(選択) 応用生物(選択) 応用情報工学(選択) 電気・精密加工工学(選択)	応用物理特論(選択) 応用化学(選択) 応用生物(選択) 応用情報工学(選択) 応用電気工学(選択)	電子電子工学(選択) 応用ソフトウェア工学(選択) 情報通信工学(選択) 電気計測工学(選択) システム工学(選択) 電気材料工学(選択) 電気計測工学(選択)	
					機械設計法 ハルス回路設計 電子回路設計 ソフトウェア工学(選択) 工学実験実習Ⅳ	マシニング 電子制御設計 ソフトウェア工学(選択)	応用数学特論 応用電気工学(選択) 応用物理特論(選択) 応用化学(選択) 応用生物(選択) 応用情報工学(選択) 電気・精密加工工学(選択)	応用数学特論(選択) 応用物理特論(選択) 応用化学(選択) 応用生物(選択) 応用情報工学(選択) 電気・精密加工工学(選択)	応用物理特論(選択) 応用化学(選択) 応用生物(選択) 応用情報工学(選択) 応用電気工学(選択)	電子電子工学(選択) 応用ソフトウェア工学(選択) 情報通信工学(選択) 電気計測工学(選択) システム工学(選択) 電気材料工学(選択) 電気計測工学(選択)	
発展力				校外実習(自由選択)		インターンシップ(選択)	知的財産権特論(選択) 生産システム工学特別実験 製造・生産技術特別実験				
コミュニケーション力				卒業研究		日本語表現法(選択) 日本語表現法(選択) 日本語表現法(選択) 日本語表現法(選択) 日本語表現法(選択)	コミュニケーション特論(選択) 上級英語演習 専攻科英語特論 技術表現法 人文社会特論(選択)			技術表現法	
倫理力				技術者倫理		技術者倫理	技術者倫理				
各学年における達成目標		※子午線製作を通して回路製作を体験し、ものづくりに対する興味を深める。 ※プログラミングの基礎を習得する。 ※基礎製図の基礎を習得する。	※電気回路の諸法則を回路解析に活用できる能力を身につける。 ※電子回路の基礎的な計算能力を身につける。 ※デジタル回路の基礎的な計算能力を身につける。 ※電子計測の基礎的な測定方法を習得する。	※電気回路・電子回路の基礎的な計算能力を身につける。 ※電子回路の基礎的な計算能力を身につける。 ※デジタル回路の基礎的な計算能力を身につける。 ※電子計測の基礎的な測定方法を習得する。	※電気回路の諸法則及び電子回路の基礎的な計算能力を身につける。 ※電子回路の基礎的な計算能力を身につける。 ※デジタル回路の基礎的な計算能力を身につける。 ※電子計測の基礎的な測定方法を習得する。	※コンピュータネットワークの運用技術を習得する。 ※回路解析における各種現象を理解する。 ※計測・制御技術の実験について習得する。 ※卒業までに電子制御の基礎専門知識を習得できる。 ※実験や解析の結果を論文に発表できる。 ※卒業後の就職活動に必要とされる能力を身につける。	※コンピュータネットワークの運用技術を習得する。 ※回路解析における各種現象を理解する。 ※計測・制御技術の実験について習得する。 ※卒業までに電子制御の基礎専門知識を習得できる。 ※実験や解析の結果を論文に発表できる。 ※卒業後の就職活動に必要とされる能力を身につける。	※コンピュータのオペレーティングシステムを制御し、より具体的なソフトウェアやシステム開発が行えることを習得する。 ※画像処理や信号処理などデジタル制御技術を習得する。 ※卒業までに電子制御の基礎専門知識を習得できる。 ※卒業後の就職活動に必要とされる能力を身につける。			

(出典 専攻科資料)

資料 5-5-①-5 物質工学科—物質工学専攻科目系統図

学習教育目標	細目	授業科目																			
		1年					2年					専攻科1年		専攻科2年							
		1	2	3	4	5	前期	後期	前期	後期											
基礎力	一般基礎知識	情報科学Ⅰ 基礎化学 生物学 物質工学基礎演習	情報科学Ⅱ 応用物理Ⅰ	情報科学Ⅲ 応用物理Ⅱ 工業概論Ⅰ 工業概論Ⅱ	現代化学Ⅰ(選) 現代化学Ⅱ(選)	現代化学Ⅲ(選) 材料デザイン工学	現代化学Ⅳ(選) 現代化学Ⅴ(選)	現代化学Ⅵ(選) 現代化学Ⅶ(選)	現代化学Ⅷ(選) 現代化学Ⅷ(選)	現代化学Ⅸ(選) 現代化学Ⅸ(選)	現代化学Ⅹ(選) 現代化学Ⅹ(選)	現代化学Ⅺ(選) 現代化学Ⅺ(選)	現代化学Ⅻ(選) 現代化学Ⅻ(選)	現代化学Ⅼ(選) 現代化学Ⅼ(選)	現代化学Ⅽ(選) 現代化学Ⅽ(選)	現代化学Ⅾ(選) 現代化学Ⅾ(選)	現代化学Ⅿ(選) 現代化学Ⅿ(選)	現代化学ⅰ(選) 現代化学ⅰ(選)	現代化学ⅱ(選) 現代化学ⅱ(選)		
	有機化学系	有機化学基礎	有機化学Ⅰ 高分子化学基礎	有機化学Ⅱ 高分子化学	有機化学Ⅲ 有機材料	有機化学Ⅳ 有機化学Ⅳ(選)	有機化学Ⅴ 有機化学Ⅴ(選)	有機化学Ⅵ 有機化学Ⅵ(選)	有機化学Ⅶ 有機化学Ⅶ(選)	有機化学Ⅷ 有機化学Ⅷ(選)	有機化学Ⅸ 有機化学Ⅸ(選)	有機化学Ⅹ 有機化学Ⅹ(選)	有機化学Ⅺ 有機化学Ⅺ(選)	有機化学Ⅻ 有機化学Ⅻ(選)	有機化学Ⅼ 有機化学Ⅼ(選)	有機化学Ⅽ 有機化学Ⅽ(選)	有機化学Ⅾ 有機化学Ⅾ(選)	有機化学Ⅿ 有機化学Ⅿ(選)	有機化学ⅰ 有機化学ⅰ(選)	有機化学ⅱ 有機化学ⅱ(選)	
	無機化学系	無機化学基礎	無機化学Ⅰ 無機化学Ⅱ	無機化学Ⅲ 無機化学Ⅲ	無機化学Ⅳ 無機化学Ⅳ	無機化学Ⅴ 無機化学Ⅴ	無機化学Ⅵ 無機化学Ⅵ	無機化学Ⅶ 無機化学Ⅶ	無機化学Ⅷ 無機化学Ⅷ	無機化学Ⅸ 無機化学Ⅸ	無機化学Ⅹ 無機化学Ⅹ	無機化学Ⅺ 無機化学Ⅺ	無機化学Ⅻ 無機化学Ⅻ	無機化学Ⅼ 無機化学Ⅼ	無機化学Ⅽ 無機化学Ⅽ	無機化学Ⅾ 無機化学Ⅾ	無機化学Ⅿ 無機化学Ⅿ	無機化学ⅰ 無機化学ⅰ	無機化学ⅱ 無機化学ⅱ		
	物理化学系	物理化学基礎	物理化学Ⅰ 物理化学Ⅱ	物理化学Ⅲ 物理化学Ⅲ	物理化学Ⅳ 物理化学Ⅳ	物理化学Ⅴ 物理化学Ⅴ	物理化学Ⅵ 物理化学Ⅵ	物理化学Ⅶ 物理化学Ⅶ	物理化学Ⅷ 物理化学Ⅷ	物理化学Ⅸ 物理化学Ⅸ	物理化学Ⅹ 物理化学Ⅹ	物理化学Ⅺ 物理化学Ⅺ	物理化学Ⅻ 物理化学Ⅻ	物理化学Ⅼ 物理化学Ⅼ	物理化学Ⅽ 物理化学Ⅽ	物理化学Ⅾ 物理化学Ⅾ	物理化学Ⅿ 物理化学Ⅿ	物理化学ⅰ 物理化学ⅰ	物理化学ⅱ 物理化学ⅱ		
	分析化学系	分析化学基礎	分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ	分析化学Ⅲ 分析化学Ⅲ	分析化学Ⅳ 分析化学Ⅳ	分析化学Ⅴ 分析化学Ⅴ	分析化学Ⅵ 分析化学Ⅵ	分析化学Ⅶ 分析化学Ⅶ	分析化学Ⅷ 分析化学Ⅷ	分析化学Ⅸ 分析化学Ⅸ	分析化学Ⅹ 分析化学Ⅹ	分析化学Ⅺ 分析化学Ⅺ	分析化学Ⅻ 分析化学Ⅻ	分析化学Ⅼ 分析化学Ⅼ	分析化学Ⅽ 分析化学Ⅽ	分析化学Ⅾ 分析化学Ⅾ	分析化学Ⅿ 分析化学Ⅿ	分析化学ⅰ 分析化学ⅰ	分析化学ⅱ 分析化学ⅱ		
	生物化学系	生化学基礎	生化学Ⅰ 微生物学基礎	生化学Ⅱ 微生物学Ⅱ	生化学Ⅲ 微生物学Ⅲ	生化学Ⅳ 微生物学Ⅳ	生化学Ⅴ 微生物学Ⅴ	生化学Ⅵ 微生物学Ⅵ	生化学Ⅶ 微生物学Ⅶ	生化学Ⅷ 微生物学Ⅷ	生化学Ⅸ 微生物学Ⅸ	生化学Ⅹ 微生物学Ⅹ	生化学Ⅺ 微生物学Ⅺ	生化学Ⅻ 微生物学Ⅻ	生化学Ⅼ 微生物学Ⅼ	生化学Ⅽ 微生物学Ⅽ	生化学Ⅾ 微生物学Ⅾ	生化学Ⅿ 微生物学Ⅿ	生化学ⅰ 微生物学ⅰ	生化学ⅱ 微生物学ⅱ	
	プロセス系	物質工学概論	物質工学基礎	物質工学Ⅰ 物質工学Ⅱ	物質工学Ⅲ 物質工学Ⅳ	物質工学Ⅴ 物質工学Ⅵ	物質工学Ⅶ 物質工学Ⅷ	物質工学Ⅸ 物質工学Ⅹ	物質工学Ⅺ 物質工学Ⅻ	物質工学Ⅼ 物質工学Ⅽ	物質工学Ⅾ 物質工学Ⅿ	物質工学ⅰ 物質工学ⅱ	物質工学ⅲ 物質工学ⅳ	物質工学ⅴ 物質工学ⅴ	物質工学ⅶ 物質工学ⅶ	物質工学ⅷ 物質工学ⅷ	物質工学ⅸ 物質工学ⅸ	物質工学ⅺ 物質工学ⅺ	物質工学ⅻ 物質工学ⅻ	物質工学ⅼ 物質工学ⅼ	
応用力		物質工学基礎実験 物質工学基礎実験	分析化学基礎実験 分析化学基礎実験	有機化学基礎実験 有機化学基礎実験	物理化学基礎実験 物理化学基礎実験	物質工学基礎実験 物質工学基礎実験	応用数学特論 応用数学特論	応用物理特論 応用物理特論	現代化学特論 現代化学特論	現代化学特論 現代化学特論	現代化学特論 現代化学特論	現代化学特論 現代化学特論	現代化学特論 現代化学特論	現代化学特論 現代化学特論	現代化学特論 現代化学特論	現代化学特論 現代化学特論	現代化学特論 現代化学特論	現代化学特論 現代化学特論	現代化学特論 現代化学特論		
発展力			基礎化学演習 基礎化学演習	分析化学基礎演習 分析化学基礎演習	有機化学基礎演習 有機化学基礎演習	物理化学基礎演習 物理化学基礎演習	物質工学基礎演習 物質工学基礎演習	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究		
コミュニケーション力				校外実習 校外実習	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究		
倫理力				環境科学基礎 環境科学基礎	環境科学基礎 環境科学基礎	環境科学基礎 環境科学基礎	環境科学基礎 環境科学基礎	環境科学基礎 環境科学基礎	環境科学基礎 環境科学基礎	環境科学基礎 環境科学基礎	環境科学基礎 環境科学基礎	環境科学基礎 環境科学基礎	環境科学基礎 環境科学基礎	環境科学基礎 環境科学基礎	環境科学基礎 環境科学基礎	環境科学基礎 環境科学基礎	環境科学基礎 環境科学基礎	環境科学基礎 環境科学基礎	環境科学基礎 環境科学基礎		
各学年における達成目標		1) 物質工学の概略を理解し、基礎科目である化学の内容を習得する。 2) 化学実験の基本技術習得及び実験技能を習得する。 3) フロンを学習・研究に活用するための基礎的な情報処理技術を習得する。		1) 物質工学の基礎科目に関する知識を身に付けることと、それらを問題解決に活用できる技術習得する。 2) 化学分析の原理を把握し、物質を分析する基礎的な情報処理技術を習得する。 3) フロンを学習・研究に活用するための基礎的な情報処理技術を習得する。		1) 材料工学及び生物工学分野の基礎知識を習得し、その内容を理解することと、それらを問題解決に活用できる技術習得する。 2) 環境・エネルギー問題を捉え、問題解決能力を習得する。 3) フロンを学習・研究に活用するための基礎的な情報処理技術を習得する。		1) 化学および生物工学分野の基礎知識を習得し、その内容を理解することと、それらを問題解決に活用できる技術習得する。 2) 環境・エネルギー問題を捉え、問題解決能力を習得する。 3) フロンを学習・研究に活用するための基礎的な情報処理技術を習得する。 4) 化学および生物工学分野の専門知識および実験技術を習得する。		1) 化学および生物工学分野の専門知識や最新の情報を収集し、それを活用することと、それらを問題解決に活用できる技術習得する。 2) 専門知識を基盤として、問題解決能力を向上させることと、それらを問題解決に活用できる技術習得する。 3) 幅広い工学知識を統合し、問題解決に活用する。		1) 多岐にわたる問題に精通する情報を科学的に収集し、それを活用することと、それらを問題解決に活用できる技術習得する。 2) 専門知識を基盤として、問題解決能力を向上させることと、それらを問題解決に活用できる技術習得する。 3) 幅広い工学知識を統合し、問題解決に活用する。		1) 幅広い工学知識を統合し、問題解決に活用する。 2) 問題解決へのプロセス及び結果を効果的に伝達するためのコミュニケーション能力を向上させることと、それらを問題解決に活用する。		1) 幅広い工学知識を統合し、問題解決に活用する。 2) 問題解決へのプロセス及び結果を効果的に伝達するためのコミュニケーション能力を向上させることと、それらを問題解決に活用する。		1) 幅広い工学知識を統合し、問題解決に活用する。 2) 問題解決へのプロセス及び結果を効果的に伝達するためのコミュニケーション能力を向上させることと、それらを問題解決に活用する。		1) 幅広い工学知識を統合し、問題解決に活用する。 2) 問題解決へのプロセス及び結果を効果的に伝達するためのコミュニケーション能力を向上させることと、それらを問題解決に活用する。	

(出典 専攻科資料)

資料 5-5-①-6 建築学科—建築学専攻科目系統図

学習教育目標	細目	授業科目																		
		1年					2年					専攻科1年		専攻科2年						
		1	2	3	4	5	前期	後期	前期	後期										
基礎力	一般基礎知識				応用数学 応用物理						健康科学特論 現代化学	設計デザイン工学 現代物理								
	計画系の知識	デザイン基礎Ⅰ 設計製図Ⅰ	デザイン基礎Ⅱ 設計製図Ⅱ	デザイン基礎Ⅲ 設計製図Ⅲ	建築計画Ⅰ 建築史Ⅰ 都市計画Ⅰ	建築計画Ⅱ 建築史Ⅱ 都市計画Ⅱ	構造計画 地域施設計画 地域施設計画 建築生産技術史	地域施設計画 地域施設計画 建築生産技術史	建築・地域計画実習 保存・再生論											
	構造系の知識	建築構造Ⅰ 構造力学Ⅰ	建築構造Ⅱ 構造力学Ⅱ	構造力学Ⅲ 構造力学Ⅳ	構造力学Ⅴ 構造力学Ⅵ	構造力学Ⅶ 構造力学Ⅷ	構造力学Ⅸ 構造力学Ⅹ	構造力学Ⅺ 構造力学Ⅻ	構造力学Ⅼ 構造力学Ⅽ	構造力学Ⅾ 構造力学Ⅿ	構造力学ⅰ 構造力学ⅱ	構造力学ⅲ 構造力学ⅳ	構造力学ⅴ 構造力学ⅴ	構造力学ⅶ 構造力学ⅶ	構造力学ⅷ 構造力学ⅷ	構造力学ⅸ 構造力学ⅸ	構造力学ⅺ 構造力学ⅺ	構造力学ⅻ 構造力学ⅻ	構造力学ⅼ 構造力学ⅼ	
	環境・設備系の知識				建築環境	建築設備														
	生産・材料系の知識				建築材料	建築生産														
	法規に関する知識					建築生産														
	情報処理に関する知識																			
基礎の総合力	建築入門																			
応用力				設計製図Ⅳ	設計製図Ⅴ 創造実験・演習	建築設計 建築設計	建築設計 建築設計	建築設計 建築設計	建築設計 建築設計	建築設計 建築設計	建築設計 建築設計	建築設計 建築設計	建築設計 建築設計	建築設計 建築設計	建築設計 建築設計	建築設計 建築設計	建築設計 建築設計	建築設計 建築設計	建築設計 建築設計	
発展力				建築ゼミナール	校外実習 (自由選択)	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	
コミュニケーション力		設計製図Ⅰ	設計製図Ⅱ	設計製図Ⅲ	設計製図Ⅳ	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	卒業研究 卒業研究	
倫理力					環境科学 技術者倫理	環境科学 技術者倫理	環境科学 技術者倫理	環境科学 技術者倫理	環境科学 技術者倫理	環境科学 技術者倫理	環境科学 技術者倫理	環境科学 技術者倫理	環境科学 技術者倫理	環境科学 技術者倫理	環境科学 技術者倫理	環境科学 技術者倫理	環境科学 技術者倫理	環境科学 技術者倫理	環境科学 技術者倫理	
各学年における達成目標		1) 建築に興味を持つ。 2) 建築一歩の基礎を習得する。 3) 建築史の基礎を習得する。		1) 建築の表現技法の基礎を習得する。 2) 建築力学の基礎を習得する。 3) 建築に関する情報技術の基礎を習得する。		1) 建築設計手法を習得する。 2) 建築力学の基礎を習得する。 3) 建築に関する情報技術の基礎を習得する。		1) 歴史的な背景を考慮しつつ都市・地域設計を行った建築設計手法の基礎を習得する。 2) 各種構造及び建築計画の基礎を習得する。 3) 建築生産に関する基礎的な知識・技術を習得する。 4) 建築環境に関する基礎を習得する。 5) 情報処理技術を総合的に活用する能力を身に付ける。		1) 総合的な知識に基づく建築設計を習得する。 2) 技術者として、自分の考えを日本語・英語によって効果的に表現できる基礎を身に付ける。 3) 建築生産の基礎となる現代科学の知識を習得する。 4) 社会における建築技術者に必要とされる倫理規範や目的意識を持つ。		1) 建築・都市・地域計画、建築環境及び建築生産・材料・生産といった建築学の深い知識を習得する。 2) 技術者として、自分の考えを日本語・英語によって効果的に表現できる基礎を身に付ける。 3) 建築生産の基礎となる現代科学の知識を習得する。 4) 社会における建築技術者に必要とされる倫理規範や目的意識を持つ。		1) 多岐にわたる専門知識・技術を統合し、建築の企画・設計・生産まで、その結果を評価できるようにする。 2) 情報処理技術を基盤として、創造的な建築・都市空間の企画・設計・生産ができるようになる。 3) 問題を自ら発見し、その問題を理解し適切に対応できるようにする。 4) 地域や国土を尊重しつつ地域の視野に基づいて、社会に対して積極的な情報発信できるようにする。		1) 多岐にわたる専門知識・技術を統合し、建築の企画・設計・生産まで、その結果を評価できるようにする。 2) 情報処理技術を基盤として、創造的な建築・都市空間の企画・設計・生産ができるようになる。 3) 問題を自ら発見し、その問題を理解し適切に対応できるようにする。 4) 地域や国土を尊重しつつ地域の視野に基づいて、社会に対して積極的な情報発信できるようにする。				

(出典 専攻科資料)

(分析結果とその根拠理由)

生産システム工学専攻では機械工学系，電気情報工学系，電子制御工学系の専門を，物質工学専攻では物質工学系の専門を，また，建築学専攻では建築系の専門をさらに深める教育課程となっている。この観点から，専攻科は準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっている。

観点5-5-②： 教育の目的に照らして，授業科目が適切に配置（例えば，必修科目，選択科目等の配当等が考えられる。）され，教育課程が体系的に編成されているか。また，授業の内容が，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点到に係る状況)

専攻科及び各専攻の教育目標を資料1-1-②-3（8ページに前出），各専攻の課程表を資料5-5-②-1～3に示す。3専攻とも，一般科目，専門共通科目，専門科目に区別され，各専攻の教育目標が達成できるように，それぞれバランスよく配置している。また，教育目標を達成するために特に重要な科目は，すべて必修単位としている。

専攻科共通の教育目標からみると，「高度な専門知識の習得」を達成するために，各専攻とも専門分野による講義系科目を配置し，「高度な専門技術の習得」の達成には実験系科目を配置して対応している。「豊かな想像力の育成」を達成するために，演習及び実験系科目を多く配置している。「卓越した研究開発能力」を身に付けさせるために，2年間に及ぶ特別研究や技術表現技法等を実施している。

上述のように，本校専攻科の教育課程は，専攻科共通の教育目標を達成するだけでなく，各専攻の教育目標も達成できるよう，適切に配置されている。また，大学評価・学位授与機構の学位取得のための修得科目にも対応している。

資料 5-5-②-1 生産システム工学専攻課程表

生産システム工学専攻 教育課程

区分	必修・選択	授業科目	単位数	学年別開設単位数				講義実験演習の区別	備考
				第1学年		第2学年			
				前期	後期	前期	後期		
一般科目	選択	コミュニケーション特論	2		2			講義	
		日本語表現法	2	2				講義	
		人文社会特論	2		2			講義	
		健康科学特論	2	2				講義	
	開設単位数		8	4	4	0	0		
履修単位数		4単位以上							
専門共通科目	必修	上級英語演習	2	1	1			演習	
		環境科学特論	2	2				講義	
		技術者倫理	2		2			講義	
		応用数学特論	2	2				講義	
	履修単位数		8	5	3	0	0		
	選択	応用解析特論	2		2			講義	
		知的財産権特論	2	1	1			講義	
		現代化学	2	2				講義	
		現代物理	2		2			講義	
		情報技術特論	2	2				講義	
		材料デザイン工学	2		2			講義	
	開設単位数		12	5	7	0	0		
	履修単位数		6単位以上						
専門科目	必修	生産システム工学特別研究	16	2	2	6	6	実験	
		生産システム工学特別実験	2	2				実験	
		創造・生産技術特別実験	2		2			実験	
		専攻英語講読	2	1	1			講義	
		技術表現技法	2		1		1	演習	
	履修単位数		24	5	6	6	7		
	選択	応用電磁工学	2	2				講義	
		回路網理論	2			2		講義	
		応用計測工学	2	2				講義	
		電力システム工学	2			2		講義	
		固体物性論	2	2				講義	
		量子電子工学	2				2	講義	
		光情報デバイス	2				2	講義	
		集積回路工学	2			2		講義	
		通信ネットワーク特論	2		2			講義	
		システム制御特論	2	2				講義	
		ソフトコンピューティング	2			2		講義	
		デジタル制御	2			2		講義	
		数値シミュレーション工学	2			2		講義	
		計算機システム工学	2		2			講義	
		オペレーティングシステム	2			2		講義	
		応用ソフトウェア開発	2				2	講義	
		画像処理	2				2	講義	
		音響振動工学	2				2	講義	
		弾塑性力学	2		2			講義	
		流体力学特論	2	2				講義	
		熱・物質移動論	2		2			講義	
		材料強度・材料組織学	2			2		講義	
		生産・精密加工工学	2		2			講義	
		トライボロジー・軸受特論	2			2		講義	
		品質管理工学	2			2		講義	
		インターンシップ	2	2				実習	
開設単位数		52	12	10	20	10			
履修単位数		20単位以上							

(出典 専攻科資料)

資料5-5-②-2 物質工学専攻課程表

物質工学専攻 教育課程

区分	必修・選択	授業科目	単位数	学年別開設単位数				講義実験 演習の区 別	備考	
				第1学年		第2学年				
				前期	後期	前期	後期			
一般科目	選択	コミュニケーション特論	2		2			講義		
		日本語表現法	2	2				講義		
		人文社会特論	2		2			講義		
		健康科学特論	2	2				講義		
		開設単位数	8	4	4	0	0			
	履修単位数	4単位以上								
専門共通科目	必修	上級英語演習	2	1	1			演習		
		環境科学特論	2	2				講義		
		技術者倫理	2		2			講義		
		応用数学特論	2	2				講義		
		履修単位数	8	5	3	0	0			
	選択	応用解析特論	2		2			講義		
		知的財産権特論	2	1	1			講義		
		現代化学	2	2				講義		
		現代物理	2		2			講義		
		情報技術特論	2	2				講義		
		材料デザイン工学	2		2			講義		
		開設単位数	12	5	7	0	0			
		履修単位数	6単位以上							
	専門科目	必修	物質工学特別研究	16	2	2	6	6	実験	
物質工学特別実験			2	1	1			実験		
物質工学創造演習			2	1	1			実験		
専攻英語講読			2	1	1			講義		
技術表現技法			2		1		1	演習		
		履修単位数	24	5	6	6	7			
選択		化学熱力学	2			2		講義		
		量子化学	2	2				講義		
		無機合成化学	2	2				講義		
		有機合成化学	2	2				講義		
		有機反応機構論	2				2	講義		
		分析化学特論	2		2			講義		
		環境分析化学	2			2		講義		
		生体物質化学	2	2				講義		
		化学反応工学	2		2			講義		
		粉体工学	2			2		講義		
		化学工学特論	2			2		講義		
		分離工学	2				2	講義		
		無機工業化学	2		2			講義		
		微生物工学	2		2			講義		
		材料化学	2		2			講義		
		セラミックス	2				2	講義		
		インターンシップ	2	2				実習		
			開設単位数	34	10	10	8	6		
		履修単位数	20単位以上							

(出典 専攻科資料)

資料5-5-②-3 建築学専攻課程表

区分	必修・選択	授業科目	単位数	学年別開設単位数				講義実験 演習の区 別	備考	
				第1学年		第2学年				
				前期	後期	前期	後期			
一般科目	選択	コミュニケーション特論	2		2			講義		
		日本語表現法	2	2				講義		
		人文社会特論	2		2			講義		
		健康科学特論	2	2				講義		
	開設単位数		8	4	4	0	0			
	履修単位数		4単位以上							
専門共通科目	必修	上級英語演習	2	1	1			演習		
		環境科学特論	2	2				講義		
		技術者倫理	2		2			講義		
		応用数学特論	2	2				講義		
	履修単位数		8	5	3	0	0			
	選択	応用解析特論	2		2			講義		
		知的財産権特論	2	1	1			講義		
		現代化学	2	2				講義		
		現代物理	2		2			講義		
		情報技術特論	2	2				講義		
		材料デザイン工学	2		2			講義		
	開設単位数		12	5	7	0	0			
	履修単位数		6単位以上							
	専門科目	必修	建築学特別研究	16	2	2	6	6	実験	
建築設計製図			2	2				実習		
創造設計実習			2		2			実習		
専攻英語講読			2	1	1			講義		
技術表現技法			2		1		1	演習		
履修単位数		24	5	6	6	7				
選択		地域居住空間計画	2	2				講義		
		保存再生論	2		2			講義		
		地域施設計画	2	2				講義		
		情報デザイン論	2		2			講義		
		企画デザイン論	2			2		講義		
		建築生産技術史	2	2				講義		
		建築・都市環境論	2			2		講義		
		計算力学	2			2		講義		
		鉄筋コンクリート構造特論	2		2			講義		
		構造制御論	2			2		講義		
		構造解析学特論	2		2			講義		
		材料学特論	2		2			講義		
		建築・地域計画実習	2		2			実習		
建築構造材料実験		2	2				実験			
インターンシップ		2	2				実習			
開設単位数		30	10	12	8	0				
履修単位数		20単位以上								

(出典 専攻科資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の専攻科教育目標に照らして、その目標を達成できるように、授業科目をバランスよく配置している。また、各専攻が定める教育目標も達成できるよう配慮しており、教育課程の体系的性が確保できている。さらに、この教育課程は学位(学士)取得のための修得科目にも対応している。

観点5-5-③： 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成(例えば、他専攻の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施等が考えられる。)に配慮しているか。

(観点に係る状況)

他高等教育機関での履修・単位認定や他専攻の授業科目の修得については、「専攻科の授業科目の履修等に関する規則」を定めており、学習意欲のある学生に対応している(資料5-5-③-1)。

専攻科の第1学年では、専攻科設立時より夏季休業中などに長期インターンシップを実施しており、実働10日以上で2単位取得できる選択科目としている(資料5-5-③-2)。インターンシップの報告会は準学士課程第4学年の校外実習報告会と合同で開催し、公開して実施している。また、実習は県内外の企業をはじめ、大学等でも実施している。例として、平成18年度のインターンシップ実施先一覧を資料5-5-③-3に示す。

資料5-5-③-1 専攻科授業科目の履修規則

○米子工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、米子工業高等専門学校学則(以下「学則」という。)第53条第2項及び第56条の規定に基づき、米子工業高等専門学校専攻科(以下「専攻科」という。)の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関し、必要な事項を定めるものとする。

(1単位当たりの授業時間)

第2条 1単位時間は、標準50分とし、単位制とする。

2 授業は、講義、演習、実験及び実習のいずれかにより、または、これらの併用により行うものとする。

3 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の各号の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。

(3) 実験及び実習については、45時間の授業をもって1単位とする。

(履修方法)

第3条 専攻科に開設する授業科目のうち選択科目の履修にあたっては、年度当初に別に定める「選択科目履修届」(別紙様式第1号)を所定の期日までに専攻科長へ提出しなければならない。

(指導教員)

第4条 特別研究の指導上、特に必要があると認められる場合、専攻科委員会は当該学生が在籍する専攻以外の教員を指導教員として指名することができる。

(試験)

第5条 専攻科の試験は、定期試験及び追試験とする。

- 2 定期試験は、各学期末に実施する。なお、平素の成績により評価しうる授業科目については、この限りではない。
- 3 追試験は、病気その他やむを得ない事由により、定期試験を受験できなかった者に対し実施する。追試験を受けるものは、追試験受験願（別紙様式第2号）を所定の期日までに専攻科長へ提出し、許可を得なければならない。

(成績評価)

第6条 授業科目の成績は、原則として当該科目担当教員が定期試験の成績その他を総合して100点法で評価するものとする。

2 学業成績を評語で表す必要がある場合は、次の基準による。

評	評点	100～80点	79～70点	69～60点	59点以下
価	評語	優	良	可	不可

- 3 欠課時数が年間授業数の3分の1を超える科目の学業成績評価はしないものとする。ただし、特別な状況にあると専攻科委員会で認められた場合はこの限りではない。

(単位の認定)

第7条 学業成績の評価が60点以上と評価された授業科目については、当該科目を修得したものとして単位を認定する。

(専攻科の修了要件)

第8条 専攻科の修了に必要な単位数は、62単位（一般科目4単位以上、専門共通科目14単位以上、専門科目44単位以上）とする。

(他の教育機関等で履修した科目の単位認定)

第9条 他の高等専門学校の専攻科及び大学等（以下「大学等」という。）で開設されている授業科目の履修を希望する者は、あらかじめ大学等の許可を得た上、大学等履修届（別紙様式第3号）を、事前に専攻科長に提出しなければならない。なお、その授業科目を履修の上、60点以上と評価されて修得した単位は、6単位を超えない範囲で、専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

(他専攻の授業科目の修得)

第10条 本校の他の専攻で開設されている選択科目の履修を希望する者は、あらかじめ担当教員の許可を得た上で、選択科目履修届（別紙様式第1号）を専攻科長に提出し、その許可を得なければならない。ただし、第8条の修了要件には含めないものとする。

(専攻科の修了認定)

第11条 専攻科の修了の認定は、本校学則及び本規程に基づき、専攻科修了認定

会議において審議の上、校長が行う

(再履修)

第12条 第7条で単位修得を認定されなかった授業科目は、再履修することができる。

- 2 前項で定める再履修は、第3条の規定を準用する。

附則（記載省略）

（出典 平成19年度学生便覧）

資料 5-5-③-2 インターンシップのシラバス

対象学科・専攻	物質工学専攻				担当教員	■■■■
授業科目名	インターンシップ				科目コード	
学年	1年		2年			
開講時期	前期	後期	前期	後期	合計単位数	
単位数	2				2	
区分*	専門科目 選択				授業の形態*	実習
授業概要*	本科のインターンシップと同様に学校とは異なった環境である企業などでの実務を経験し、修得した知識や技術を再認識するとともに、技術の応用について学習する。また、技術者としての姿勢や社会人としての自覚も学ぶ。					
関連する本校の学習教育目標	(B)(C)(E)			関連するJABEE学習教育目標	(B)(C)(E)	
到達目標*	(1) 知識・技術の実用例を体験し、技術者としての姿勢を学ぶ (2) 今後の進路選択に役立てる					
授業の進め方と アドバイス*	受け入れ先の企業などは、原則として個々の学生によって異なるので、学校での授業や実験・実習のように他の人に相談したり、聞いたりすることはできない。したがって、実習に参加する前には、一人一人がこれまで学習した教科内容のうち実習に関するものすべてを一度復習する必要がある。 服装、髪型などについては社会人として常識的なものとする。また、実習先への移動についても事故などないように十分注意すること。					
授業内容 スケジュール*	回数	授業内容				
	4月	インターンシップに関するガイダンス(期間、単位認定などについて) 実習希望の意思を物質工学専攻の実習担当教員(本科のインターンシップ担当教員)に伝達する				
	7月中旬~8月	企業などでの実習(10日間以上)				
	10月	実習報告会(本科4年生の報告会と一緒に進行) 実習報告書提出(*実習学生が作成し、提出する) 校外実習証明書受理(*実習先より提出される)				
	3月	単位認定				
教科書*	特になし(実習先から指定されることもある)					
参考書	特になし(実習先から指定されることもある)					
関連教科	関連教科すべて					
基礎知識						
成績の評価方法*	総合評価割合				実習報告書と実習報告会によって総合的(50点ずつ)に評価する。	
	定期試験			50%		
	レポート			50%		
	演習・小テスト			50%		
	その他			50%		
				100%		
備考						

(出典 平成 19 年度専攻科シラバス)

資料5-5-③-3 インターンシップ実施先一覧

平成18年度専攻科 インターンシップ先一覧

専攻	実習先	実習期間
生産システム専攻	(株)ジェイペック	8/21-9/1
	長岡技術科学大学	8/3-8/11
	(株)ケイズ	9/11-9/25
	(株)ジェイペック	8/21-9/1
	鳥取県産業技術センター 機械素材研究所	8/21-9/1
	鳥取三洋電機(株)	8/21-9/1
	長岡技術科学大学	8/3-8/11
	(株)ジェイペック	8/21-9/1
物質工学専攻	サンイン技術コンサルタント(株)	7/31-8/11
	米子市水道局	8/21-9/1
建築学専攻	美保テクノス(株)	7/31-8/11

(出典 平成18年度インターンシップ先一覧)

(分析結果とその根拠理由)

他高等教育機関で履修した科目の単位認定や他専攻の授業科目の修得など、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請などに対応した教育課程の編成に配慮している。また、専攻科設立時より長期インターンシップの単位認定を行うなど、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成となっている。

観点5-6-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。(例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。)

(観点に係る状況)

専攻科における授業科目と授業形態は資料5-5-②-1～3(111～113ページに前出)のようになっている。全専攻共通の目標としている「高専5年間の教育課程の上に、より高度な専門知識と技術を教授し、豊かな創造力と卓越した研究開発能力をもった高度実践的技術者を育成する」(資料1-2-①-5, 11ページに前出)を達成するために、技術者の根幹となる「環境科学特論」、「技術者倫理」などを専門共通科目の中で、必修科目として設けている。また、技術者としてのコミュニケーション力を養うために「専攻英語講読」や「技術表現技法」、創造力や技術力を養うために「特別研究」なども全専攻で設けている。

専攻科の履修単位は62単位以上であるが、そのうちの24単位以上が必修の研究・実験・演習科目となっており、選択科目も合わせると最大で30単位となる。割合で見ると、必修単位だけでも約40%であり、授業形態のバランスは適切である。

また、資料5-6-①-1のように各科目でそれぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫、例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等を行っている。

資料5-6-①-1 授業の工夫

専攻科授業科目	実施授業数(のべ)	実施教員数
教材の工夫	32	19
少人数授業の実施	30	18
対話・討論型授業の実施	13	10
フィールド型授業	2	1
視聴覚機器の利用	26	18
基礎学力不足の学生への配慮	9	3

(出典 平成18年度シラバスより抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスは、教育の目的に照らして適切である。また、教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫を実施している。

観点5-6-②： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

(観点に係る状況)

創造性の養成を実施している科目としては資料5-6-②-1に示すようなものがあり、資料5-6-①-1に示した授業方法の工夫と合わせて活用している。

また、専攻科では2週間以上のインターンシップを実施しており、異なる環境である企業などでの実務を経験することで、習得した知識や技術を再認識するとともに、技術の応用について学習している。さらに、この経験を通して、技術者としての姿勢や社会人としての自覚を学んでいる。

資料5-6-②-1 創造性を育む教育を実施している科目名

学年	科目名
1	コミュニケーション特論
1	生産システム工学特別実験
2	応用ソフトウェア開発
2	画像処理

(出典 平成18年度シラバスより抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

創造性の育成を試みている科目や授業の工夫を実施している科目が多数あり、それらは併用して活用している。また、インターンシップは教育課程の一環として実施しており、異なる環境での実務を通して、技術者としての自覚を再認識させている。

観点5-6-③： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点に係る状況)

専攻科のシラバスは、準学士課程のシラバスシステムとは別に、印刷物として学生に配布してきた。また、シラバスの主な項目としては、授業概要、到達目標、学習上の留意点、授業内容とスケジュール、教科書・参考書、関連教科、成績の評価法であり、毎年改訂している。

平成19年度からは、準学士課程のシラバスシステムの更新に伴い、専攻科課程のシラバスを同じシステムで管理・公開することにした。また、これに伴い、関連する専攻科の学習教育目標、関連するJABEE学習教育目標、授業の進め方とアドバイスなどの項目を追加した(資料5-6-③-1)。

また、各科目とも、初回の授業では受講学生に対してガイダンスを行い、シラバスを用いた授業内容の説明を行っている。さらに、4月の専攻科ガイダンス時には、シラバスを用いて科目履修についての説明を行うとともに、履修の手引(資料5-6-③-2, 別添資料5-6-③-1)等を用いて、1単位当たりの学習時間の説明を行っている。

資料5-6-③-1 シラバス記入例

対象学科・専攻	生産システム工学専攻				担当教員	■■■■
授業科目名	固体物性論				科目コード	
学年	1年		2年			
開講時期	前期	後期	前期	後期	合計単位数	
単位数	2				2	
区分*	専門科目 選択				授業の形態*	講義
授業概要*	最初は結晶の一般的理解を助けるためX線回折を取り上げる。X線波の干渉でブラッグ反射、回折強度が表現される事を学ぶ。次に結晶中の光伝搬やエネルギー流(ポインティングベクトル)を調べる。光の振る舞いはマックスウェルの電磁方程式より記述される。最後は、磁性を扱い古典的な磁気では理解できない量子論的なスピン、角運動量を用いて鉄属の強磁性を解釈する。					
関連する本校の学習教育目標	(A)、(B)			関連するJABEE学習教育目標	(A)、(B)	
到達目標*	原子配列で散乱されたX線の干渉で回折パターンが決まることおよびそれによって格子定数、歪みが測定できることを理解する。結晶光学ではレーザ発振、光導波路の基礎となる光伝搬について、結晶中で波が分波して別々な速度伝搬することを理解する。磁性物性では、古典的なアンペールの法則が磁気モーメントに焼き直すされることを理解する。鉄、カドミウム等の磁気的な現象は、原子の許容される配位磁気量子数で決定されることを理解する。					
授業の進め方とアドバイス*	学科によって基礎的な力が異なるので、授業の始めには前回の授業の大切な点の要約を話す。授業にあっては関連する簡単な質問をして理解できているか確かめる。授業で説明や証明が難しい内容はレポートで学習させる。比較的高度な内容的で身につけるより理解することが重要になる。					
授業内容スケジュール*	回数	授業内容				
	第1週: 授業の進め方、評価のガイダンス、					
	第2週: 結晶構造					
	第3週: 原子列によるX線回折					
	第4週: 逆格子					
	第5週: 原子散乱因子					
	第6週: 結晶構造因子、ラウエ関数					
	第7週: 結晶光学					
	第8週: 前期中間試験					
	第9週: 異方性媒質内の光波					
	第10週: 波動方程式の導出					
	第11週: 平面波、球面波の表現					
	第12週: 固体の磁気的性質					
	第13週: 電子の回転運動					
	第14週: 軌道角運動量と量子的磁気モーメント					
	第15週: 鉄属の強磁性					
	前期期末試験					
教科書*	川端昭「電子材料・部品と計測」コロナ社					
参考書	応用物理光学懇話会編「結晶光学」森北出版、青木昌治「電子物性工学」コロナ社					
関連教科	電気電子材料、機械材料関連科目					
基礎知識	応用数学、電磁気学					
成績の評価方法*	総合評価割合				定期試験(2回)70点	
	定期試験			70%	レポート 20点(授業の理解のため)	
	レポート			20%	演習・口頭試問 10点(理解の確認)	
	演習・小テスト			10%		
	その他			0%		
			100%			
備考						

(出典 平成19年度シラバスより抜粋)

資料5-6-③-2 履修の手引

目 次

1. 専攻科概要	・・・ 1
2. 専攻科の教育方針等	・・・ 1
3. 専攻科研究スケジュール	・・・ 5
4. 科目履修の手引き	・・・ 6
5. 学位（学士）の取得	・・・ 11

<資料>

資料1 米子工業高等専門学校学則（専攻科関連抜粋）

資料2 専攻科授業科目の履修等に関する規則

資料3 専攻科選択科目履修届

資料4 専攻科追試験受験願

資料5 大学等履修届

資料6 大学等における学修単位認定申請書

(出典 平成19年度履修の手引)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科のシラバスにおいても、全教科でシラバスを作成し、毎年改訂している。また、授業概要、到達目標、学習上の留意点、授業内容とスケジュール、成績の評価法なども明記しており、適切に整備している。さらに、シラバスは授業や専攻科ガイダンスで活用している。

観点5-7-①： 専攻科で修学するにふさわしい研究指導（例えば、技術職員などの教育的機能の活用、複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。）が行われているか。

(観点到に係る状況)

専攻科での特別研究は、準学士課程で得た学識や技術及び卒業研究の成果を基礎として、広い視野

から理論的体系的かつ実践的に考察する能力と独創性を身につけることを目的とし、2年間にわたって実施している（資料5-7-①-1～3）。多くの学生は、専攻科進学後も準学士課程と同じ指導教員の研究室で研究を行うため、同じ研究テーマに3年間従事することが多い。研究室を変更した学生に対しては、指導教員が専攻科で修学するにふさわしい研究テーマをいくつか提示し、その中から学生が選択するようにしている。

指導体制は、研究テーマに類似した専門分野の研究を行っている教員と連携して、複数の教員による体制をとる場合もあるが、多くの場合は指導資格のある教員によるマンツーマンによるきめ細かい指導を心掛けている。また、研究成果については、ほとんどの学生が学会等で発表しており（資料5-7-①-4）、後援会及び同窓会による旅費の補助も行っている。

資料5-7-①-1 生産システム工学特別研究シラバス

対象学科・専攻	生産システム工学専攻			担当教員	■■■■■■■■■■ ■■■■
授業科目名	生産システム工学特別研究			科目コード	
学年	1年		2年		
開講時期	前期	後期	前期	後期	合計単位数
単位数	2	2	6	6	16
区分*	専門科目 必修			授業の形態*	その他
授業概要*	<p>担当教員の指導のもとに、広く文献を調べその専門的視野を広げ、観測・実験・シミュレーション・設計などを通じて、研究開発のための創造的問題解決能力を養う。その成果は論文としてまとめ、内容を公開する。</p> <p>研究内容については、各学年における成果発表と、学会などでの発表を原則として義務付ける。</p> <p>研究テーマは、各指導教員との綿密なディスカッションを行った上で決定する。</p>				
関連する本校の学習教育目標	C「社会と自らを高める発展力」 D「地球の一員としての倫理力」 E「社会と関わるためのコミュニケーション力」			関連するJABEE学習教育目標	(a),(b),(c),(d),(e),(f),(g),(h)
到達目標*	<p>(1) 研究課題の背景や目的を把握し、第三者に対してわかりやすく説明できる。</p> <p>(2) 研究を遂行する上で問題点を明らかにし、研究計画の立案が自主的にできる。</p> <p>(3) 研究成果を第三者にわかりやすく説明できる。</p> <p>(4) 特別研究論文として、得られた成果を適切な構成と文章で的確に記述できる。</p>				
授業の進め方とアドバイス*	本科の卒業論文と異なるのは、いかに自主的かつ自発的に研究に取り組むかである。計画・立案を自主的にして欲しい。研究の実施内容については活動記録に残すこと。				
授業内容スケジュール*	回数	授業内容			
	<p>1年目</p> <p>4月 ガイダンス、研究テーマの決定、資料収集(文献調査)、計画立案</p> <p>5月 研究開始</p> <p>1月～3月 中間発表会、中間報告書の提出</p> <p>2年目</p> <p>12月～2月 研究内容審査</p> <p>2月～3月 特別研究発表会、特別研究論文の提出</p>				
教科書*	各指導担当教員による				
参考書	各指導担当教員による				
関連教科	本科・専攻科の専門および一般教科すべて				
基礎知識	本科・専攻科の専門および一般教科すべて				
成績の評価方法*	総合評価割合				特別研究論文および審査発表会の内容で評価する。主査1名+副査による複数教員での審査を原則とする。
	定期試験			%	
	レポート			%	
	演習・小テスト			%	
	その他			100%	
備考					

(出典 平成19年度シラバス)

資料5-7-①-2 物質工学特別研究シラバス

対象学科・専攻	物質工学専攻				担当教員	■■■■■■■■■■
授業科目名	物質工学特別研究				科目コード	
学年	1年		2年			
開講時期	前期	後期	前期	後期	合計単位数	
単位数	2	2	6	6	16	
区分*	専門科目 必修				授業の形態*	その他
授業概要*	物質工学特別研究は、物質工学専攻における一般および専門教育科目の内容の集大成というべき科目である。本科における卒業研究を基礎として、より高度な物質工学分野の個別研究を指導教員の下で2年間にわたって自主的に調査・計画・実験・考察を繰り返し行い、専門知識の総合化と深化を図り、課題解決に向けて広い視野から理論的且つ実践的に取り組み解決する能力と独創性を育成する。					
関連する本校の学習教育目標	(A)(B)(C)(E)			関連するJABEE学習教育目標	(A)(B)(C)(E)	
到達目標*	(1) 研究課題の背景や目的を把握し、第三者に対してわかりやすく説明できる (2) 研究を遂行する上で問題点を明らかにし、研究計画の立案が自主的にできる (3) 研究成果を第三者にわかりやすく説明できる (4) 特別研究論文として、得られた成果を適切な構成と文章で的確に記述できる					
授業の進め方とアドバイス*	本科の卒業論文と異なるのは、いかに自主的かつ自発的に研究に取り組むかである。計画・立案を自主的にして欲しい。研究の実施内容については活動記録に残すこと。					
授業内容スケジュール*	回数	授業内容				
	1年目 4月 ガイダンス、研究課題の決定、資料収集(文献調査)、計画立案、予備実験 5月 実験開始 12月 中間発表会(本科の卒業研究発表会と同時)準備 1月 中間発表会 3月 中間報告書の提出 2年目 12月 修了発表会(本科の卒業研究発表会と同時)準備 1月 特別研究発表会、特別研究論文作成 2月 特別研究論文提出 3月 修了発表会(専攻科全体)					
教科書*	特になし					
参考書	特になし					
関連教科	本科・専攻科の専門および一般教科すべて					
基礎知識						
成績の評価方法*	総合評価割合				特別研究論文の内容で評価する。主査1名+副査2名による審査を原則とし、主査50点、副査25点×2名=50点、合計100点満点とする。	
	定期試験			%		
	レポート			%		
	演習・小テスト			%		
	その他			100%		
備考	100%					

(出典 平成19年度シラバス)

資料 5 - 7 - ① - 3 建築学特別研究シラバス

対象学科・専攻	建築学専攻			担当教員	■■■■	
授業科目名	建築学特別研究			科目コード		
学年	1年		2年			
開講時期	前期	後期	前期	後期	合計単位数	
単位数	2	2	6	6	16	
区分*	専門科目 必修			授業の形態*	その他	
授業概要*	<p>本科における卒業研究・卒業設計の経験を基礎として、建築学に関する個別分野でのさらにレベルの高い研究・設計を指導教員のもとで2年間行う。</p> <p>研究内容は、中間発表、最終発表および外部発表を行うものとする。</p>					
関連する本校の学習教育目標	(A)技術者としての基礎力 (B)持てる知識を使う応用力 (C)社会と自らを高める発展力 (D)地球の一員としての倫理力 (E)社会とかかわるためのコミュニケーション力			関連するJABEE学習教育目標	(a),(b),(c),(d),(e),(f),(g),(h)	
到達目標*	<p>1)調査、数理解析、実験や調査を通じ専門知識の総合化と深化をはかることができる。</p> <p>2)問題解決に向けて広い視野から論理的、実践的に探究していくことができる。</p> <p>3)第三者に成果をプレゼンテーションすることができる。</p>					
授業の進め方とアドバイス*	得られた成果は論文あるいは設計図書として提出される。また、研究および設計の成果については、学会発表あるいは設計競技参加などを原則的に義務付ける。質問対応としての共通のオフィスアワーの設定はないので、各指導教員の指示によること。					
授業内容スケジュール*	回数	授業内容				
	所属研究室ごとに内容が異なるので、詳細は指導教員の指示による。 以下は特別研究に関する概略のスケジュールである。					
	初年度はじめ(4月):ガイダンス(研究室ごとに実施) テーマの決定					
	初年度末(2月):専攻科特別研究中間発表会					
	初年度末~次年度はじめ:学会等での成果発表					
	次年度(10月):大学評価学位授与機構へレポートの提出					
	次年度末(2月):大学評価学位授与機構の審査結果発表 専攻科特別研究審査会(公聴会)					
	(2月):専攻科特別研究発表会					
教科書*	特別研究は専門知識の総合化と深化を目指している。参考資料等は研究内容によって異なる。					
参考書	指導教員の指示による。					
関連教科	全教科の内、各自の特別研究に対応する教科が主体となる。					
基礎知識	これまで学んだすべての事項					
成績の評価方法*	総合評価割合				研究の立案・実施(作成)及び研究成果が適切な形式(論文・図面・模型など)で期限内に作成できたかどうか等を、主査1名(60%)、副査2名(20×2=40%)で評価する。評価の内訳は以下の通りである。	
	定期試験			%		到達目標(1)30パーセント
	レポート			%		到達目標(2)40パーセント
	演習・小テスト			%		到達目標(3)30パーセント
	その他			100%		
				100%		
備考						

(出典 平成 19 年度シラバス)

資料 5-7-①-4 平成 18 年度研究テーマ・指導教員・研究成果等一覧

特別研究テーマ	特別研究を行った期間	主査氏名	副査氏名	支援を受けた技術職員 の人数	卒研テーマとの 連続性	発表学会名(年度)	特別研究テーマ決定のための指導
超音波による焼結軸受の油膜厚さ測定	H18年度～	大塚茂	矢壁正樹	0	○	日本機械学会学生会卒業 研究発表講演会(H18年度)	本科卒業研究と連続して行う。
純Cu多結晶材の疲労初期の変形過程に及ぼす特殊Cuメッキの効果	H18年度～	大塚茂	河添久美		×		あり
強制加給による多孔ガスパーナードの加熱効率向上に関する研究	H18年度～	森田慎一	早水庸隆	2	無 専攻科より 当研究室に 配属された為	第43回日本伝熱シンポジウム(名古屋H18年度)	以下の指導後、テーマ決定している。 1.複数テーマから本人希望テーマの聴取 2.該当学生の適性および能力の把握 3.研究チームメンバーとの相性・適性の把握
回転する曲がり管内の流動挙動(テイラー・ディーン流れ)に関する研究	H18年度～	森田慎一	早水庸隆	3	○	1. 中・四国地区高専専攻科生研究交流会(H18年度) 2. 日本機械学会中国四国支部第45期総会・講演会(H18年度)	以下の指導後、テーマ決定している。 1. 該当学生の適性および能力の把握 2. 研究チームメンバーとの相性・適性の把握
半導体超格子の構造変調と特性改善の関係	H18年度～	松原孝史	浅倉邦彦 松本正己		○	1. 中四国地区専攻科生交流会(H18年度) 2. IEEE広島支部学生会シンポジウム(H18年度) 3. 高専シンポジウム(H18年度、投稿済、発表予定)	
分岐をもつフォトニック結晶光導波路の光波伝搬解析	H18年度～	松原孝史	浅倉邦彦 松本正己		×	高専シンポジウム(h18年度、投稿済、発表予定)	
クリティカル・パス・システムの構築支援に関する研究(仮)	H18年度～	松本正己	浅倉邦彦	0		未	本人の希望をふまえ、課題演習を行うことで適正を判断して決定
自己組織化マップを用いた加速度脈波による健康診断装置における診断部の開発	H18年度～	権田英功				高専シンポジウム(H18)	
加速度脈波分類における測定データの時系列フィット法	H18年度～	権田英功				高専シンポジウム(H18)	
自律型移動ロボットの姿勢制御	H18年度～	加納尚之	中山繁生	2	○	計測自動制御学会中国支部学術講演会(H18)	
流れ画像に対するブラインド信号処理	H18年度～	加納尚之	河野清尊	0	×	第15回計測自動制御学会中国支部学術講演会(平成18年度)	特になし
超指数法を用いた流れ画像のブラインド復元	H18年度～	加納尚之	河野清尊	0	×	第15回計測自動制御学会中国支部学術講演会(平成18年度)	特になし
鶏糞焼却灰の有効利用に関する研究	H18年度～	竹中敦司			○		
超音波による焼結軸受の油膜厚さ測定	H17年度～ H18年度	大塚茂	矢壁正樹	0	○	日本機械学会学生会卒業 研究発表講演会(H17年度)	本科卒業研究と連続して行う。
Pendubotの振り上げ安定化制御	H17年度～ H18年度	松本至	宮田仁志、池田英 広		○	1. 計測自動制御学会中国支部学術講演会(H17) 2. 中・四国地区高専専攻科生研究交流会(H18年度) 3. 計測自動制御学会中国支部学術講演会(H18)	あり
微細水の連続生成を目的とする過冷却解放に関する研究	H17年度～ H18年度	森田慎一	早水庸隆	2	無 専攻科より 当研究室に 配属された為	第43回日本伝熱シンポジウム(名古屋H18年度)	以下の指導後、テーマ決定している。 1.複数テーマから本人希望テーマの聴取 2.該当学生の適性および能力の把握
車両型移動ロボットの走行制御に関する研究	H17年度～ H18年度	宮田仁志	権田英功	0	○	1. 平成18年度中国四国地区高等専門学校専攻科生研究交流会 2. 第8回IEEE学生会シンポジウム(h18)	
自己組織化マップを用いた大気汚染物質データからの知識抽出及び光化学オキシダント濃度予測	h17年度～	権田英功				高専シンポジウム(H17,H18)	

(出典 専攻科資料)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科での特別研究は、広い視野から理論的体系的かつ実践的に考察する能力と独創性を身につけることを目的とし、2年間にわたって実施している。研究テーマによっては複数教員による指導体制をとる場合があるが、多くの場合はマンツーマンによるきめ細かい指導を心掛けている。また、研究成果は学会等で発表するように指導しており、専攻科で就学するにふさわしい研究指導を行っている。

観点5-8-①： 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

専攻科での成績評価、単位認定、修了要件等は、「専攻科の授業科目の履修等に関する規則」(資料5-5-③-1, 114~115ページに前出)に定めており、専攻科の履修の手引及び学生便覧に掲載することによって周知している。また、4月の専攻科ガイダンス時においても、履修の手引を用いて説明している(資料5-8-①-1)。

成績評価については、シラバスに記載している評価法に基づいて実施しており、単位認定及び修了認定については、全教員が出席する進級認定会議により決定している。会議の席では、全学生の成績一覧を提示して審議しており、適切に実施している(資料5-8-①-2, 訪問調査時に提示)。

資料5-8-①-1 専攻科ガイダンス資料

専攻科・入学ガイダンス

専攻科棟2F オープンシアター

1. 専攻科長あいさつ

スタッフ紹介

2. 日程説明

11:20~ ガイダンス

13:00~ ネットの説明(第1端末室)

図書館ガイダンス(米子高専卒業生以外)

3. 配布資料の説明(まずあることを確認)

通学方法届け(回覧するので、すぐ記入のこと)

個人記録(早めに事務に提出すること)

履修の手引き

科目履修については「専攻科履修の手引き」をよく読んで理解しておくこと。

(専攻によって専門科目が異なるので注意)

履修する科目は必ず最初の授業にでること。

履修の取りやめはできるだけないように(やめたらすぐに連絡すること)

1/3より多く欠席すると、単位が認められない

学位取得までの流れ

選択科目履修届2年間の単位取得計画を4/12(木)までに提出のこと

学生証

時間割

暫定版シラバス

学生便覧

実験実習安全必携(米子高专卒以外の学生)

情報端末パスワード

車両通学関連資料

4. 諸連絡

総合連絡はシアター横の掲示板, または電光掲示により行う.

学生用メールボックスを1Fリフレッシュゾーンに用意する.

(個人向けの配布物を入れるのでこまめにチェックすること)

在学証明書は発行機で(パスワードは教務)

写真撮影4/6 10:30 ロータリー前

健康診断について

健康の日4/26(木)(3,4限の応用数学特論の時間に実施)

X線→身体計測(第2体育館)→視力(武道場)

内科検診5/10(水)5限(特別実験の開始を少し遅らす)大会議室

交流会4/28, 29

(出典 平成19年度専攻科・入学ガイダンス資料)

(分析結果とその根拠理由)

成績評価・単位認定規則・修了認定規則は、組織として制定しており、シラバスや学生便覧に掲載して学生に周知している。また、これらの規則に従って、成績評価、単位認定及び修了認定を適切に実施している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

準学士課程においては、教育目標をより適切に達成するために、教育課程を大幅に改訂して実施している。講義、演習、実験実習等の授業形態は、特定の学年に集中することなく第1学年から第5学年にわたってバランスよく配分しており、高専の特色である5年間一貫教育システムを十分に活かした教育を実践している。低学年の数学系科目では、25年以上前から学生の習熟度に応じたクラス編成で授業を実施しており、学科間の枠にとらわれない編成によって教育効果を上げている。さらに、e-ラーニングや情報機器、視聴覚機器等の活用を積極的に行う等、学習指導法の工夫を実施している。

創造性の育成はあらゆる科目で配慮されており、ほぼ満足できる程度に実施している。インターンシップについてはその制度も確立され、十分活用できている。人間の素養の涵養については、ホームルームを中心とした特別活動、クラブ活動、外部講師による各種講話の実施などの多様で計画的な活動を通じて行っている。

専攻科課程においては、準学士課程の専門をさらに深める教育課程となっており、連携を考慮した教育課程としている。特に、技術者能力の根幹を成す科目、「技術者倫理」、「環境科学特論」、「特別研究」、「技術表現技法」等は、全専攻において必修科目であり、教育目標を適切に達成できるように配慮している。また、各科目でそれぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫を行っている。さらに、専攻科では実働10日以上インターンシップを実施しており、異なる環境である企業などでの実務を経験することで、習得した知識や技術を再認識するとともに、技術の応用について学習している。

専攻科での特別研究は、広い視野から理論的体系的かつ実践的に考察する能力と独創性を身につけることを目的とし、2年間にわたって実施している。また、研究成果は学会等で発表するように指導しており、専攻科で就学するにふさわしい研究指導を行っている。

(改善を要する点)

特になし

(3) 基準5の自己評価の概要

<準学士課程>

教育の目的に照らして学科ごとに授業科目の系統図を作成し、その適切な配置や学年間での関連を考慮した教育課程を編成しており、教育内容の体系性を確保している。また、授業科目の内容も、全体として教育課程の編成の趣旨に沿っている。各学科の教育目標に照らして、専門科目を適切に配置している。シラバスは毎年更新しており、適切に整備・活用している。

各科目の授業形態は、特定の学年に集中することなくバランスよく配分しており、高専の特色である5年間一貫教育システムを十分に活かした教育を実践している。低学年の数学系科目では習熟度に応じたクラス編成で授業を実施しており、学科間の枠にとらわれない編成によって教育効果を上げている。さらに、e-ラーニングや情報機器、視聴覚機器等の活用を積極的に行う等、学習指導法の工夫を実施している。このほか、第4学年にはインターンシップとしての授業科目「校外実習」を実施し、その効果も認められる。

成績評価や進級・卒業認定に関する規則を制定し、学生便覧に記載することで学生への周知を十分行っている。また、全教員が出席する進級・卒業認定会議において、適切に成績評価・単位認定や

進級・卒業認定を行っている。

特別活動は、LHRと球技大会や高専祭などの学生会企画の行事に大別でき、その活動の中で得られる人間関係、社会との対応、自己研鑽など、人間的資質を涵養するにふさわしい体験ができる状況になっている。また、生活指導面における指導方針は統一されており、全教員は学生が人間としての基本的素養を身に付けることを目的として、日々の指導を行っている。さらに、外部講師による講演会も実施し、人間性の素養の涵養に努めている。クラブ活動については学生会が中心となり、指導教員が課外活動に関わることで、学生の人間教育に全校体制で取り組んでいる。

<専攻科課程>

大学評価・学位授与機構の審査を受けて学位の取得ができ、出身学科の専門を深められるように科目を系統的に整備している。また、近隣の他大学等で開講している科目も受講できるよう、体制を整えている。講義形式の授業が半数強を占めるが、演習、実験、実習等とのバランスも適切である。また、技術者能力の根幹を成す科目として、「技術者倫理」、「環境科学特論」、「特別研究」、「技術表現技法」等は、全専攻において必修科目としている。これらの科目は、「より高度な専門的知識と技術を教授し、豊かな創造力と卓越した研究開発能力をもった高度実践技術者を育成する」を目指しており、また、社会の変化、学生の多様なニーズに対応したものである。

さらに、各科目でそれぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫、例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等を行っている。また、専攻科では実働10日以上インターンシップを実施しており、異なる環境である企業などでの実務を経験することで、習得した知識や技術を再認識するとともに、技術の応用について学習している。

専攻科のシラバスにおいても、全教科でシラバスを作成し、毎年改訂している。また、授業概要、到達目標、学習上の留意点、授業内容とスケジュール、成績の評価法なども明記されており、適切に整備されている。さらに、シラバスは授業や専攻科ガイダンスで活用している。

専攻科での特別研究は、広い視野から理論的体系的かつ実践的に考察する能力と独創性を身につけることを目的とし、2年間にわたって実施している。研究テーマによっては複数教員による指導体制をとる場合があるが、多くの場合はマンツーマンによるきめ細かい指導を心掛けている。また、研究成果は学会等で発表するように指導しており、専攻科で就学するにふさわしい研究指導を行っている。

成績評価・単位認定規則・修了認定規則等は、組織として策定され、シラバスや「専攻科履修の手引き」で学生に周知している。また、これらの規則に従って、成績評価、単位認定、修了認定を適切に実施している。

